





高野原遺跡B・C区（上空から）

# 例 言

1. 本書は、平成6年度県営農地保全整備事業元野地区に伴い田野町教育委員会が実施した「高野原遺跡」発掘調査結果のうち、主に弥生時代の出土資料について報告するものである。尚、本事業は宮崎県中部農林振興局からの委託と国庫補助事業を得て実施した。

2. 平成6年度の調査は次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会	教 育 長	鍋 倉 政 信	
同	社会教育課	課 長	前 田 久 育	
調整担当	田野町教育委員会	同	補 佐 兼 係 長	長 友 啓 泰
庶務担当		同	主 査	長 友 カツ子
調査担当		同	主 任 主 事	森 田 浩 史
		同	臨 時 調 査 員	白 岩 修
調査指導	宮崎県教育庁	文 化 課		

3. 平成14度の室内調査及び資料整理作業は、次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会	教 育 長	西 田 英 介	
同	教育次長兼社会教育課長		新 坂 政 光	
	社会教育課	係 長	後 藤 敏 典	
調整担当	田野町教育委員会	社会教育課	主 査	森 田 浩 史
庶務担当		同	副 主 査	藤 野 愛 子
調査担当		同	主 査	森 田 浩 史
		同	主 任	金 丸 武 司
		同	臨 時 調 査 員	吉 住 さ と 子

4. 室内整理作業の実施にあたっては、整理作業員等の補助を得た。また遺物の一覧表作成及び図版の作成は、委託作業員である永島江里子を中心におこなった。

5. 本書の執筆は森田・金丸が担当し、森田が編集した。また遺物の写真撮影は吉住が担当した。

5. 本書で用いた方位は磁北、標高は海拔高である。

6. 本書に掲載した全ての資料は、田野町教育委員会文化財調査事務所が保管している。

# 本文目次

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	1
第3節 調査の概要	5
第4節 弥生時代の遺構と遺物	5
第5節 まとめ	33

# 図面図版目次

第1図 町内主要遺跡分布図	2
第2図 調査区周辺地形図	4
第3図 調査区旧地形概要図	6
第4図 高野原遺跡B・C区遺構分布図	9~10
第5図 SA-24遺物出土状況図	11
第6図 SA-25遺物出土状況図	12
第7図 SA-31遺物出土状況図	13
第8図 SA-32遺物出土状況図	14
第9図 SA-33遺物出土状況図	15
第10図 SA-34遺物出土状況図	16
第11図 SA-35遺物出土状況図	17
第12図 SA-36遺物出土状況図	18
第13図 SA-24内出土土器実測図	23
第14図 SA-25・26内出土土器実測図	24
第15図 SA-28・31内出土土器実測図	25
第16図 SA-32内出土土器実測図	26
第17図 SA-32・33内出土土器実測図	27
第18図 SA-34・35内出土土器実測図	28
第19図 SA-35・36内出土土器実測図	30
第20図 SA-36内出土土器実測図	31
第21図 SA-36内出土土器実測図	32
第22図 出土石器実測図	34
第23図 本野遺跡の主な遺構と遺物 (SA-07・11)	35
第24図 本野遺跡の主な遺構と遺物 (SA-01・04~06)	36

# 表 目 次

表1 遺構内出土土器觀察表.....	19~22
表2 出土石器觀察表.....	32

# 写 真 図 版 目 次

図版1 SA-24内出土土器.....	37
図版2 SA-25・26・28内出土土器.....	38
図版3 SA-31・32内出土土器.....	39
図版4 SA-32・33内出土土器.....	40
図版5 SA-34・35内出土土器.....	41
図版6 SA-36内出土上器.....	42
図版7 SA-36内出土土器・出土石器.....	43

## 高野原遺跡B・C区の調査

### 第1節 調査に至る経緯

田野町元野地区を中心に、平成4年度から県営農地保全整備事業元野地区に伴う各種工事が計画・実施されている。

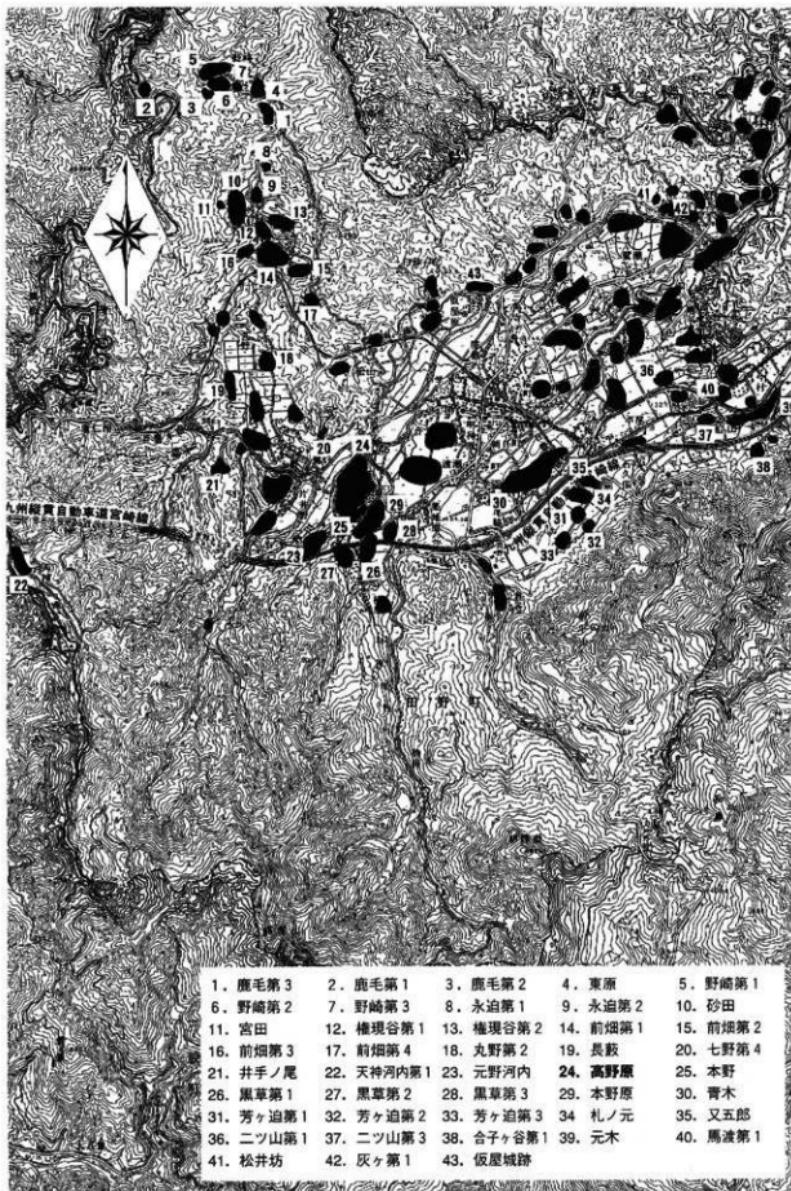
平成6年度も同高野原工区で整備事業が計画されたため、工区内の文化財の所在及び範囲を明らかにするための試掘調査が宮崎県文化課により実施された。その結果、かなり高密度の遺跡の所在が確認されたため、県中部農林振興局、県文化課、町農業整備課、町教育委員会、町土地改良区の間で、遺跡の保護と工事設計の見直し等について再三にわたる協議を行ったが、設計施工上どうしても文化財の消滅を免れない部分があり、やむをえず発掘調査による記録保存の措置を執ることになった。県中部農林振興局と発掘調査の委託契約を締結し、同年9月8日から調査に着手した。

### 第2節 遺跡の位置と歴史的環境

田野町内には以前から多くの遺跡の所在が知られていた。また、近年の発掘調査や分布調査などにより各時代の生活の痕跡が徐々にではあるが明らかにされつつある。まずは町内に所在する各時代の遺跡について概略を紹介しておきたい。

旧石器時代はナイフ型石器が表採された三角寺地区の萩ヶ瀬第2遺跡、前平地区の芳ヶ迫第1・第3・札ノ元遺跡、七野地区の長藪遺跡、元野地区の元野河内遺跡、鹿村野地区のズクノ山第2遺跡などがある。芳ヶ迫第1遺跡では集石遺構が検出され、その周囲からナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・彫器・搔器などが出土。また同第3遺跡でも集石遺構に伴った石核・剥片の他、剥片尖頭器が出土。長藪遺跡ではA T上に堆積した褐色ローム層から石核・剥片などが出土。ズクノ山第2遺跡では、F地区で小林降下軽石層からさらに下位の褐色ローム層にかけて剥片などが出土している。この他、最近では平成13年度に調査した元野地区の本野原遺跡からも少量ながら採集された。

縄文時代は草創期から晩期にかけての遺跡が、それぞれ濃淡はあるものの町内各地に点在する。草創期は札ノ元遺跡、芳ヶ迫第3遺跡、塩水地区的井手ノ尾遺跡、八重地区的砂田遺跡、七野地区的七野第4遺跡などで発掘調査に伴い土器片などが出土。これらは、いずれも縄文時代早期の包含層から出土したものである。また、同時期の遺構は現在のところ確認されていない。早期は町内各地の台地や丘陵上にほぼ全域にわたって遺跡が所在するといつても過言ではない。しかし、各遺跡の遺構分布密度や遺物出土量には濃淡がある。主なところとしては、前出の芳ヶ迫第1・第3遺跡、札ノ元遺跡、井手ノ尾遺跡、砂田遺跡、ズクノ山第2遺跡をはじめとして、前平地区的又五郎遺跡、天神地区の天神河内第1遺跡、二ツ山地区的二ツ山第1遺跡、八重地区的前畠第



第1図 町内主要遺跡分布図

1遺跡、鹿村野地区の前野原第2遺跡・ズクノ山第1遺跡などがある。これらは、いずれも集石造構を伴うが、竪穴住居跡が検出されたのは又五郎遺跡のみである。芳ヶ迫第1・第3遺跡、札ノ元遺跡、二ツ山第1遺跡では集石造構が高密度で検出されている。ズクノ山第2遺跡E地区では土坑と長円形の配石造構が検出されており、中でも調査区の西端において検出された6基の土坑は比較的整然と配置されていることから、墓としての機能も考えられる。前期に入るとこれらの様相が一変し、遺跡数及び遺物出土量の極端な減少傾向がみられ、調査によって確認されたのは長蔵遺跡、大神河内第1遺跡、本野原遺跡、船ヶ山地区の元木遺跡、元野地区の本野遺跡、七野地区の丸野第2遺跡などにとどまる。本野原遺跡では竪穴住居跡が1軒のみ検出されている。中期もこれと同様の傾向がみられ、丸野第1遺跡、二ツ山第3遺跡、本野遺跡、本野原遺跡などにとどまる。二ツ山第3遺跡では円形の竪穴住居跡が、本野原遺跡では方形の竪穴住居跡が検出されている。後期になると、遺跡数は少ないながらも大規模な集落の造営が確認されはじめ、晚期に至ってから徐々に終息していく傾向がみられる。主なところとして丸野第2遺跡、砂田遺跡、本野遺跡、本野原遺跡、青木遺跡などがある。青木遺跡では配石造構や貯蔵土坑が検出されたといわれる。丸野第2遺跡では円形の竪穴住居跡群と集石造構が検出されている。また、本野原遺跡では多数の竪穴住居跡や環状に配置される土坑、道路状造構、大型建造物の可能性がある土坑の並び、整地の痕跡などが検出され、全国的にも注目を集めている。この調査区より少し離れて西側へは後期末から晩期の遺構群も所在することが確認調査により明らかになっている。その他、本野遺跡で後期末もしくは晩期初頭の土器を作った竪穴住居跡群が、松山地区的吹田遺跡では分布調査時に確認された凹形のソイルマークエリア内から粗製の黒色磨研土器が採集されている。

弥生時代になると、前期に限ってはその痕跡すらみられなくなるが、中期の後葉から後期にかけての集落が突如として展開される。高野原遺跡、本野遺跡、権現谷第1遺跡、元木遺跡、ズクノ山第1遺跡などである。このうち本野遺跡、権現谷第1遺跡は方形の竪穴住居跡のみで、他は日向型間仕切り住居が含まれる遺跡である。

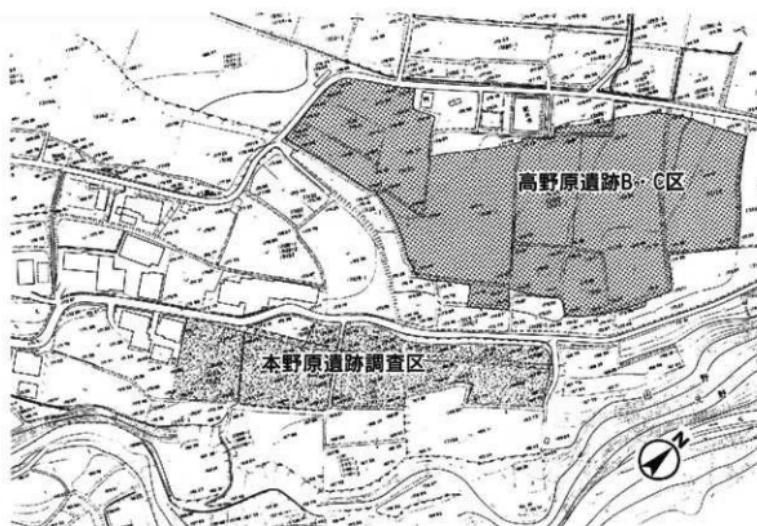
古墳時代の集落跡は現在のところないが、地下式横穴墓のみ高野原遺跡と灰ヶ野第1遺跡で発見されている。灰ヶ野1号地下式横穴墓では蛇行剣が、高野原1号地下式横穴墓では鹿角製刀装具付き剣が出上している。いずれにせよこの時代に至って、再度遺跡数が激減する傾向は否めない。

古代以降は本野原遺跡、船ヶ山地区的合子ケ谷第1遺跡や本野原遺跡などで調査例があるほか、各地で同時代の遺物が採集されている。その分布は特に河岸段丘上に多く見られ、官道を含めた道の所在と集落のあり方の一端を垣間見ることが出来る。本野原遺跡では、綠釉陶器片が出土した。また、日向16駅のひとつである敦式駅の所在地を田野町内七野地区あたりとする説もあるが、現在のところ明確にはされていない。

中近世になると、おそらく現在の集落域と重なって遺跡が所在するものと考えられる。発掘調査において確認されているのは、元木遺跡や大神河内第2遺跡のほか、元野地区周辺の畠田遺跡

と本野原遺跡のみである。中世の山城については、既に消滅した梅谷城のほかヒダカン城、上ノ原城、仮屋原城などがある。その造営には伊東と島津の戦いが背景にあったことは言うまでもない。仮屋原城は開墾や開発等の影響を受けることなく、ほぼ当時の地形を保っている。このほか、八重地区の前畠第1遺跡では矢研掘りの溝も検出されている。

高野原遺跡が所在する元野地区周辺は、跨塚山系からの豊富な水源の恩恵を受け、各時代の遺跡が点在する。中でも高野原遺跡と本野遺跡のある広大な台地上には縄文時代中期から後・晚期と弥生時代の集落跡、古墳時代の地下式横穴墓の分布がみられ、元野川を挟んだ対岸の本野原遺跡とならび、縄文時代早期を主体とする町内の他の遺跡分布エリアと比較して、卓越した内容である。当時の田野盆地内における中心的な位置を占めるエリアであったとも想定されよう。今回報告する高野原遺跡B・C区は台地南東部の標高約173m～179mの地点にあり、町道を挟んだ南側の標高約168m～172mの地点にある本野遺跡に隣接した位置にある。



第2図 調査区周辺地形図

### 第3節 調査の概要

高野原遺跡の南東部に位置するB・C区では、東側において堆積の残存状態が良く、西側及び中央部から北側にかけて耕作による削平が顕著に見られる。調査は主にアカホヤ火山灰堆積層(以下、アカホヤ層という)上面における遺構検出を目的として行った。東側ではアカホヤ層と耕作土層の間に黒色土層が堆積しており、縄文時代晚期初頭の土器が多量に出土した。しかし、遺構は掘立柱建物とピット群を検出したのみで、竪穴住居は見られなかった。尚、ピット群の中には柵列状に並ぶものもある。ピット群の大半は、埋土が他の遺構に比べて明るい暗褐色を呈し耕作土に近似していることなどから、古くても弥生時代以降のものであろう。中央部においては縄文時代の竪穴住居跡が23軒と弥生時代の竪穴住居跡が14軒に加え、40軒以上の掘立柱建物を含むピット群が検出された。時期についてはやはり特定できなかつたが、埋土にそれほど新しい要素が見られないことや東側の遺物出土状況などから、縄文時代のものも少なからず含まれると考えられる。西側についてはピット群が検出されたほか、地下式横穴墓が3基検出された。いずれも平入りタイプのもので、3号墓以外は既に崩落または破壊されている。2号墓は農地の深耕中発見された際に宮崎大学が調査したものとみられ、ビニール袋やプラスティック製皿のほか玄室閉塞時に使用されたとみられる礫が残されていた。同時期の遺物は耕作土上においても皆無であり、他の掘立柱建物やピット群はこれらに伴うものではないと判断される。

### 第4節 弥生時代の遺構と遺物

検出された竪穴住居跡は、調査区のはば中央から南及び東寄りにある。分布がさらに北側及び西側へ延びる様相はみられない。同じく検出された縄文時代の竪穴住居跡のような個々の重複関係も皆無である。これらは方形プランを呈する通常の竪穴住居5軒と間仕切りや拡張部を有するもの9軒とに大別される。後者のタイプはSA-32・33を除いて、方形プランを基調とするものであった。

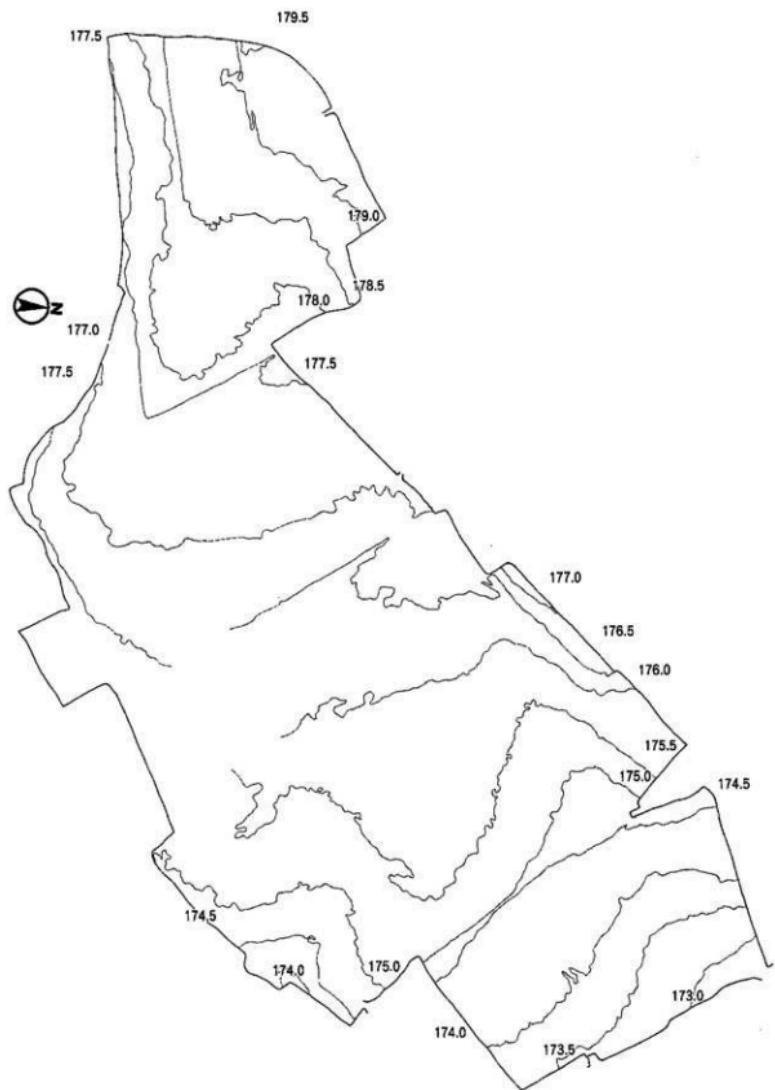
以下、各遺構の概略と出土遺物について記述しておくが、詳細は一覧表にまとめた。また遺構実測図については、一部遺物の出土状況として掲載したものを除き、田野町文化財調査報告書第45集「高野原遺跡B・C区(2)」に掲載している。

(SA-24)

竪穴住居分布域では最も東側の、標高175mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約30cm。長方形プランを基調とする間仕切り住居で、2箇所の内部突出壁と東壁に沿った長方形の拡張部を有し、北壁にも拡張の痕跡が見られる。主軸はほぼEWをとる。3本分の柱穴を有する。遺物は壺形土器(1~8) 瓢形土器(9・10)などの他、台石状の礫が出土した。

(SA-25)

SA-24から南へ最短約10.6m、標高約174mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約28cm。長方形プランを基調とし、北壁側に拡張の痕跡が見られる。住居内からは4基の土坑も検



第3図 旧地形概要図

出された。これらは円形と隅丸の方形プランを呈する。2本分の柱穴を有する。主軸はN8° Eをとる。遺物は壺形土器(13~18) 壺形土器(11・12)などが出土した。(14~16・18)は住居内土坑から出土したものである。

(SA-26)

SA-25から南西へ最短約11.8m、標高約175.3mの地点で検出した。長方形プランを基調とする間仕切り住居で、4箇所の内部突出壁を有し、東壁及び南壁にも複数回の拡張の痕跡が見られる。6~8本分の柱穴を有する。主軸はW2° Nをとる。検出面から床面最深部までは約20cmを測るが、耕作による削平の影響を大きく受けている。遺物は壺形土器(19)の他、小破片が出土したのみである。

(SA-27)

SA-26から北西へ最短約32.6m、標高約175.9mの地点で検出した。方形プランを呈し、2本分の柱穴を有する。検出面から床面最深部までは約11cmと、耕作による削平の影響を大きく受けている。主軸はN22.5° Wをとる。遺物は出土していない。

(SA-28)

SA-29から西へ最短約8.8m、標高約176.6mの地点で検出した。やや歪な方形プランを基調として7箇所の拡張部がみられる間仕切り住居で、SA-24・26と類似する。4本分の柱穴を有する。主軸はE29° Nをとる。検出面から床面最深部までは約33cm。遺物は壺形土器(20・21)をはじめ小破片と台石状の礫が2点出土した。

(SA-29)

SA-27から南西へ最短約37.6m、標高約176.3mの地点で検出した。一辺のみやや隅丸の方形プランを呈する。2本分の柱穴を有する。住居内南壁に接してほぼ中央部まで達する長方形の浅い土坑をつくる。主軸はE2.5° Nをとる。検出面から床面最深部までは約13cm。遺物は礫が2点と土器の小破片が出土したのみである。

(SA-30)

SA-29から南東へ最短約21.2m、標高約175.7mの地点で検出した。方形に埋む間仕切り部もしくは拡張部を3箇所残すのみで、大半を農地の開墾と以前の区画整理により削平されている。柱穴は確認できなかった。検出面から床面最深部までは約4cm。遺物は土器片が1点出土したのみである。

(SA-31)

SA-28から西へ最短約14.2m、標高約177mの地点で検出した。北側二辺がやや隅丸の方形プランを呈し、主軸はE6° Nをとる。2本分の柱穴を有する。検出面から床面最深部までは約29cm。遺物は壺形土器(22~25・28~30) 壺形土器(26・27・31・32)のほか、台石状の礫が3点出土した。

(SA-32)

SA-31から南東へ最短約6.4m、標高約177mの地点で検出した。かなり歪な円形プランを基調として、その周囲をベッド状の区画が円形に取り巻き、南西側には2箇所の突出壁をつくる。さらにこの2箇所はベッド状の高まりとなる。基調プラン内に7本分の柱穴を有する。主軸はN5.5°Eをとる。検出面から床面最深部までは約34cm。遺物は壺形土器(33~37・39・40・42・43)壺形土器(38・41・44~48)鉢形土器(50)とミニチュア土器(49)のほか、台石状の礫が7点出土した。

(SA-33)

SA-32から南東へ最短約4m、標高約176.9mの地点で検出した。SA-32と同様に円形プランを基調とするものとみられるが、明確な基調部は確認できなかった。3箇所の内部突出壁を有し、北側の1箇所のみベッド状に高まる。8本分の柱穴を有するが、他の類例から察して6本柱の構造であったものと考えられる。さらに中央部には不整形な土坑を有する。検出面から床面最深部までは約49cm。遺物は壺形土器(51~57)壺形土器(58・59)のほか、礫が数点出土した。

(SA-34)

SA-33から東へ最短約2.8m、標高約176.7mの地点で検出した。長方形プランを呈し、2本分の柱穴を行する。主軸はE15°Nをとる。検出面から床面最深部までは約18cm。遺物は壺形土器(60~62)壺形土器(63)のほか、台石状の礫が3点出土した。

(SA-35)

SA-33から南東へ最短約11.8m、標高約176.5mの地点で検出した。方形プランを基調とし、3箇所の拡張部を有する。いずれもベッド状の高まりはつくらない。2本分の柱穴を有する。主軸はE13°Nをとる。検出面から床面最深部までは約34m。遺物は壺形土器(64~66)壺形土器(67・68)のほか、台石状の礫が2点出土した。

(SA-36)

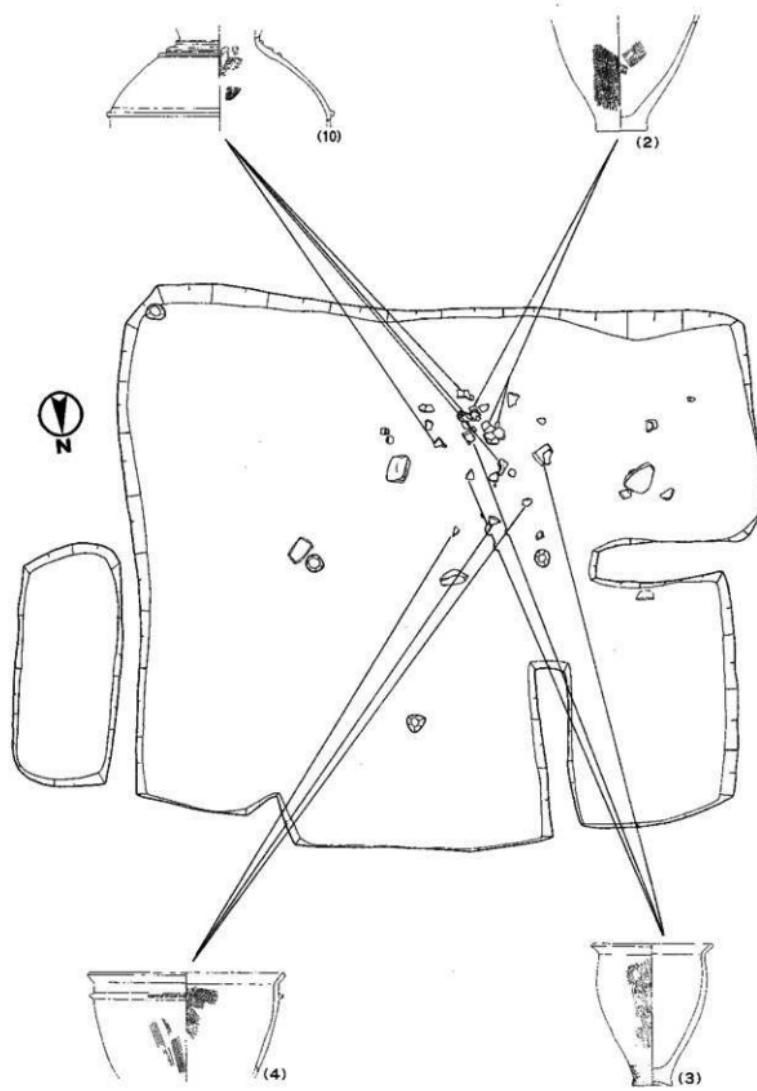
SA-35から南東へ最短約4.6m、標高約175.6mの地点で検出した。方形プランを基調とし、4箇所の内部突出壁を行する。いずれもベッド状の高まりはつくらない。2本分の柱穴を行する。主軸はE24°Nをとる。検出面から床面最深部までは約29cm。遺物は壺形土器(69~75)壺形土器(76~78)のほか、台石状の礫が1点出土した。

(SA-37)

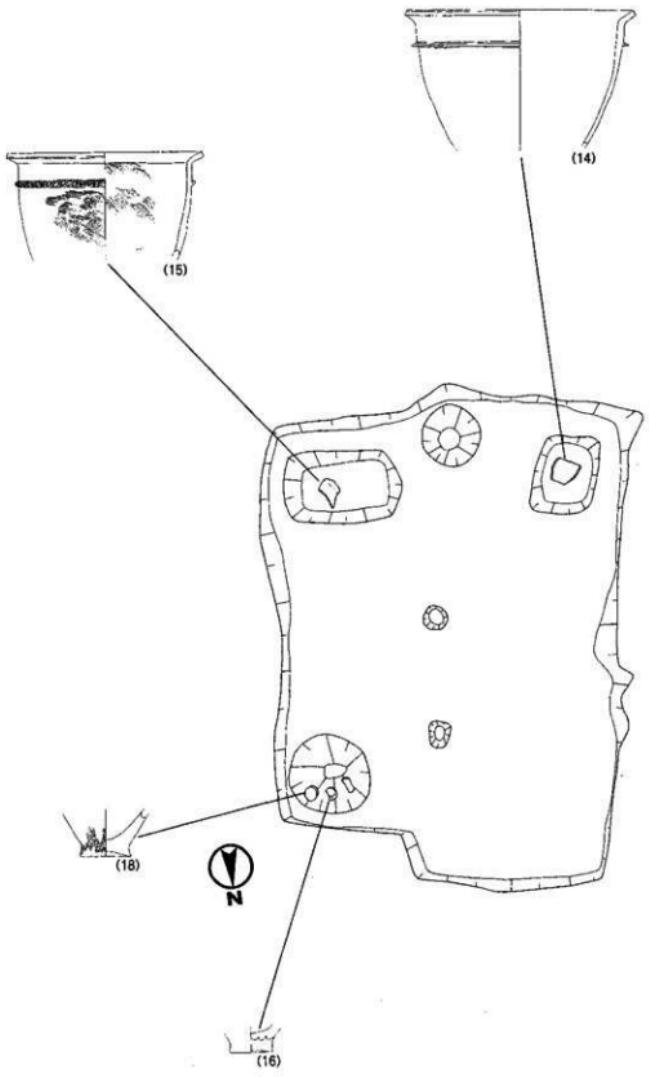
SA-32から南西へ最短約12.4m、標高約177.1mの地点で検出した。方形プランを呈し、柱穴は検出できなかった。主軸はN17°Eをとる。検出面から床面最深部までは約19cm。遺物は出土していない。

第4図 高野原遺跡B・C区遺跡分布図

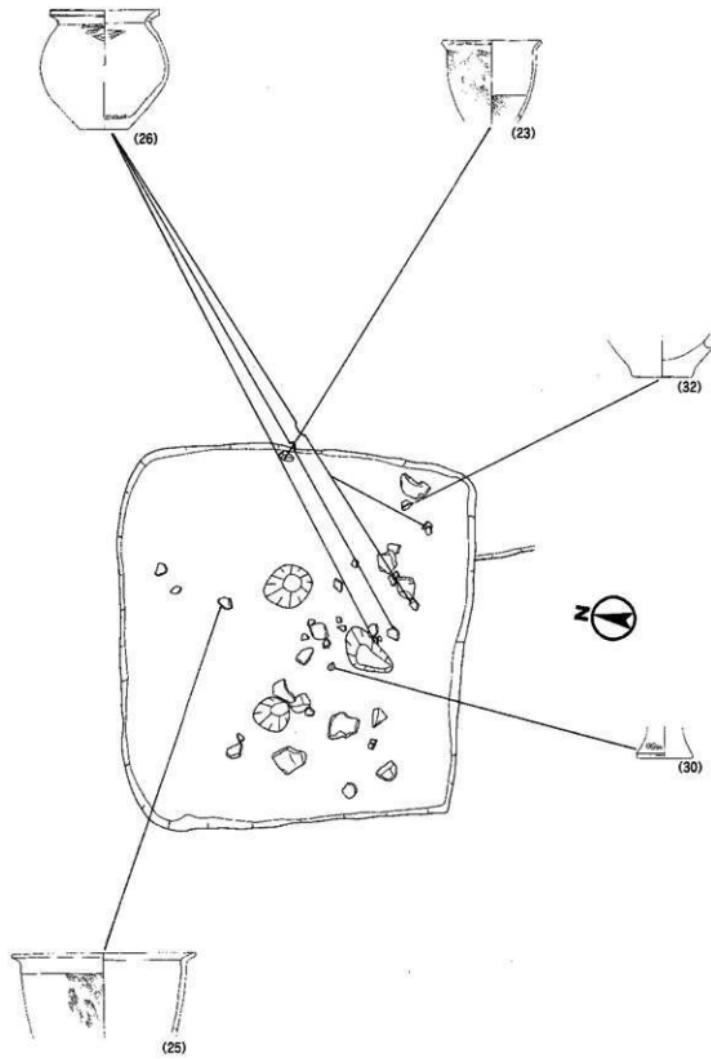




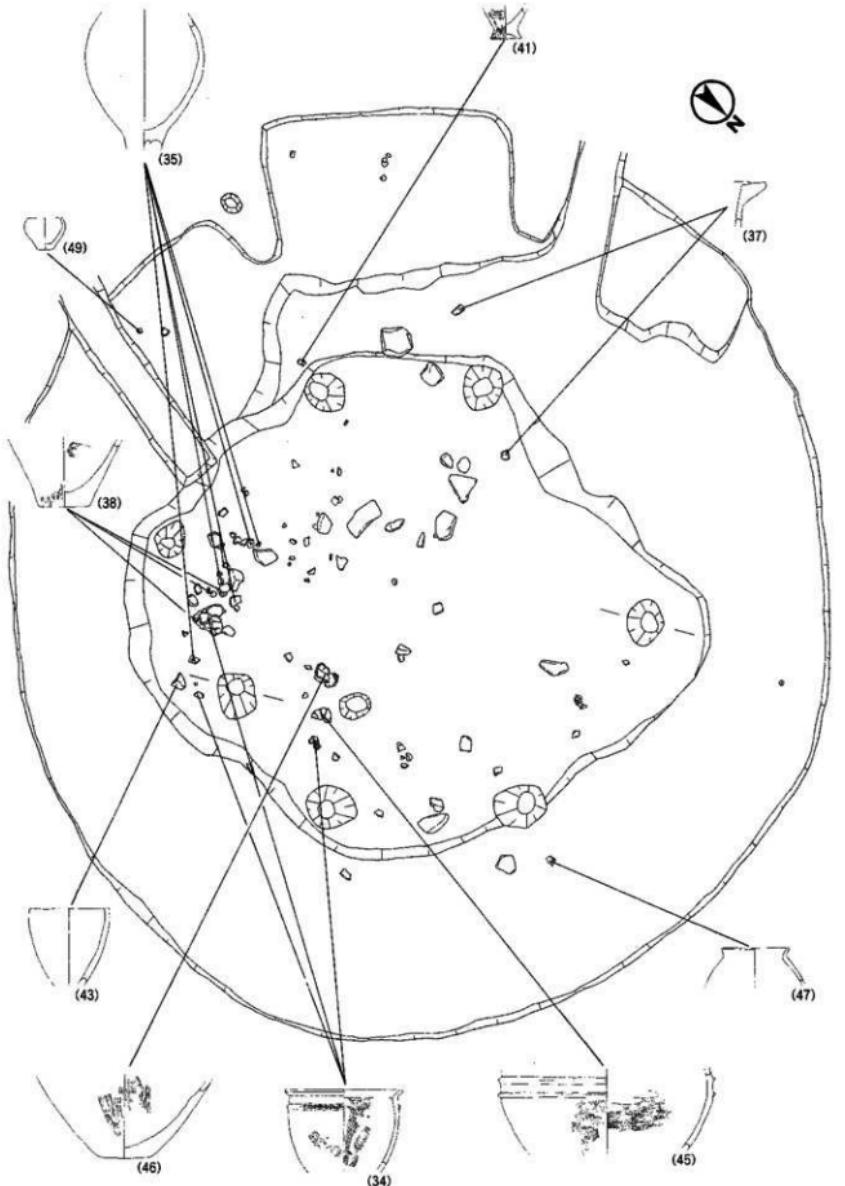
第5図 SA-24遺物出土状況図



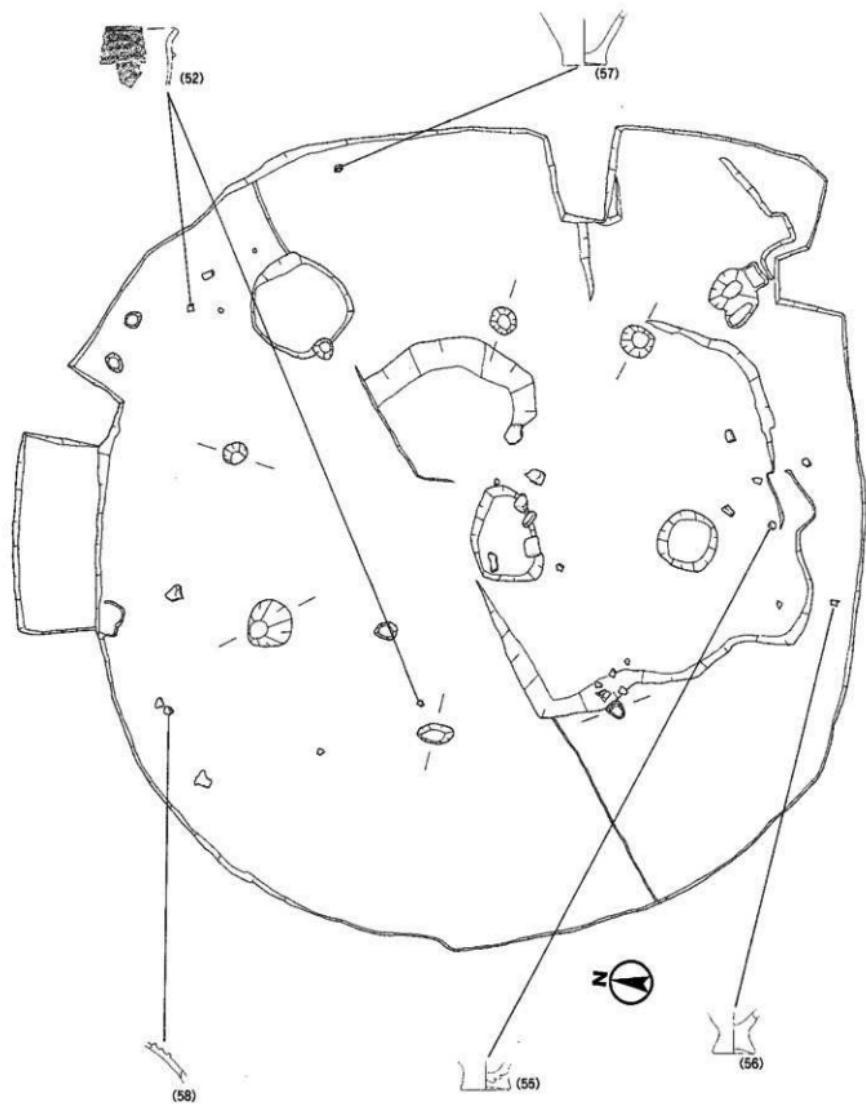
第6図 SA-25遺物出土状況図



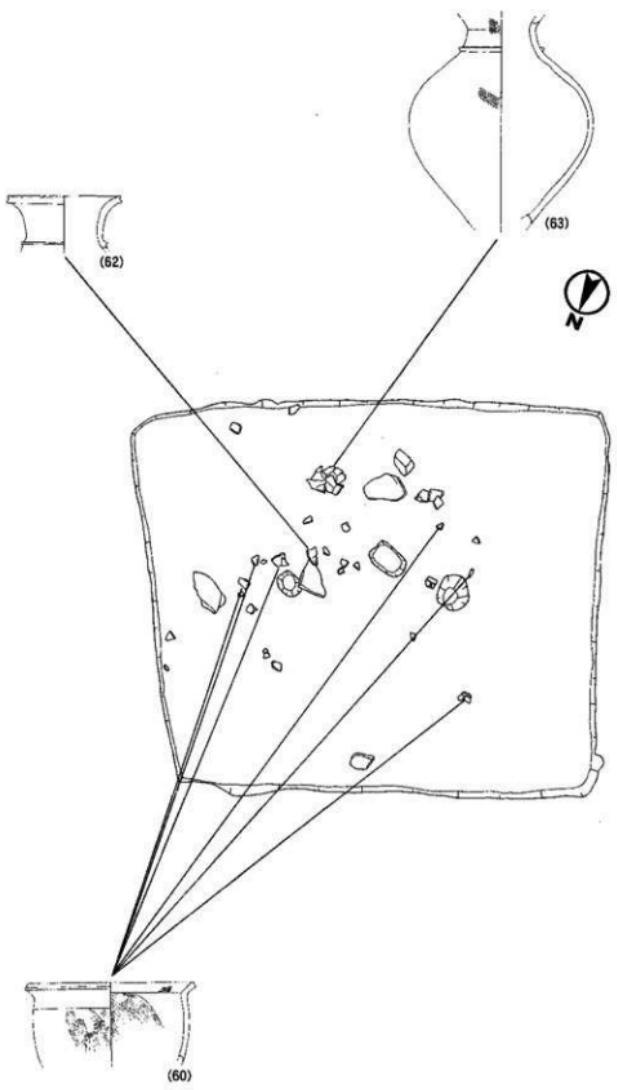
第7図 SA-31遺物出土状況図



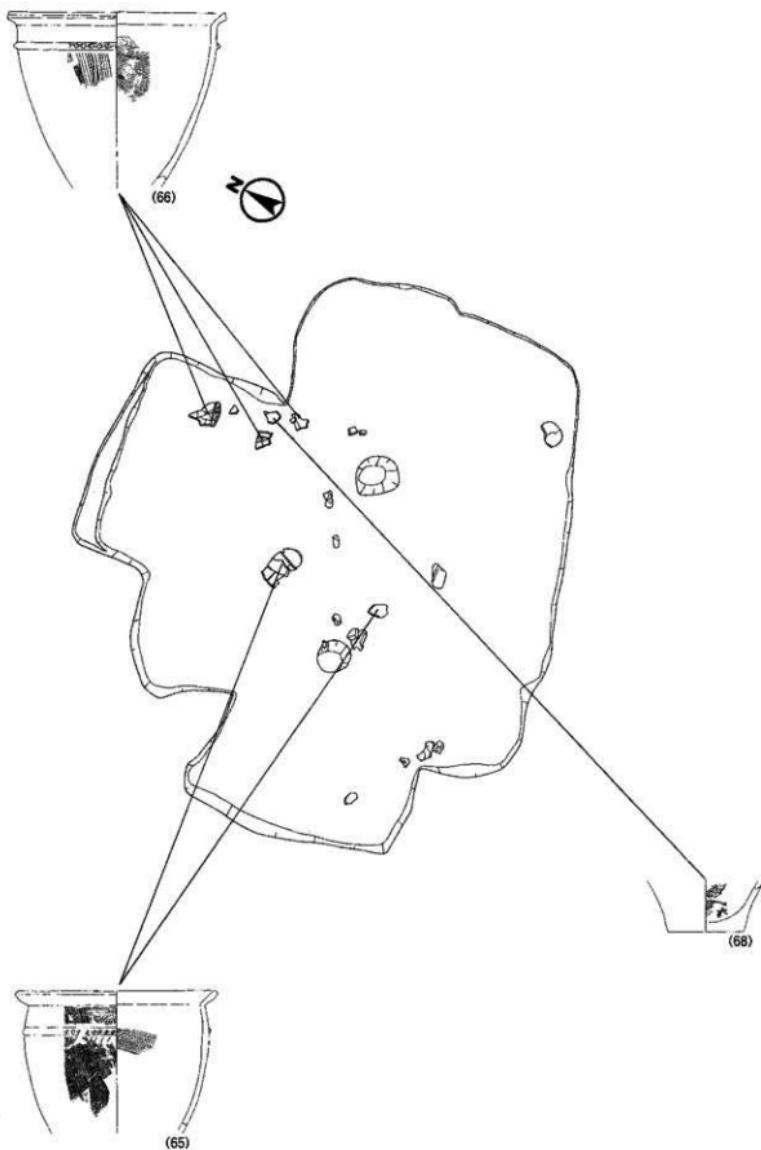
第8図 SA-32遺物出土状況図



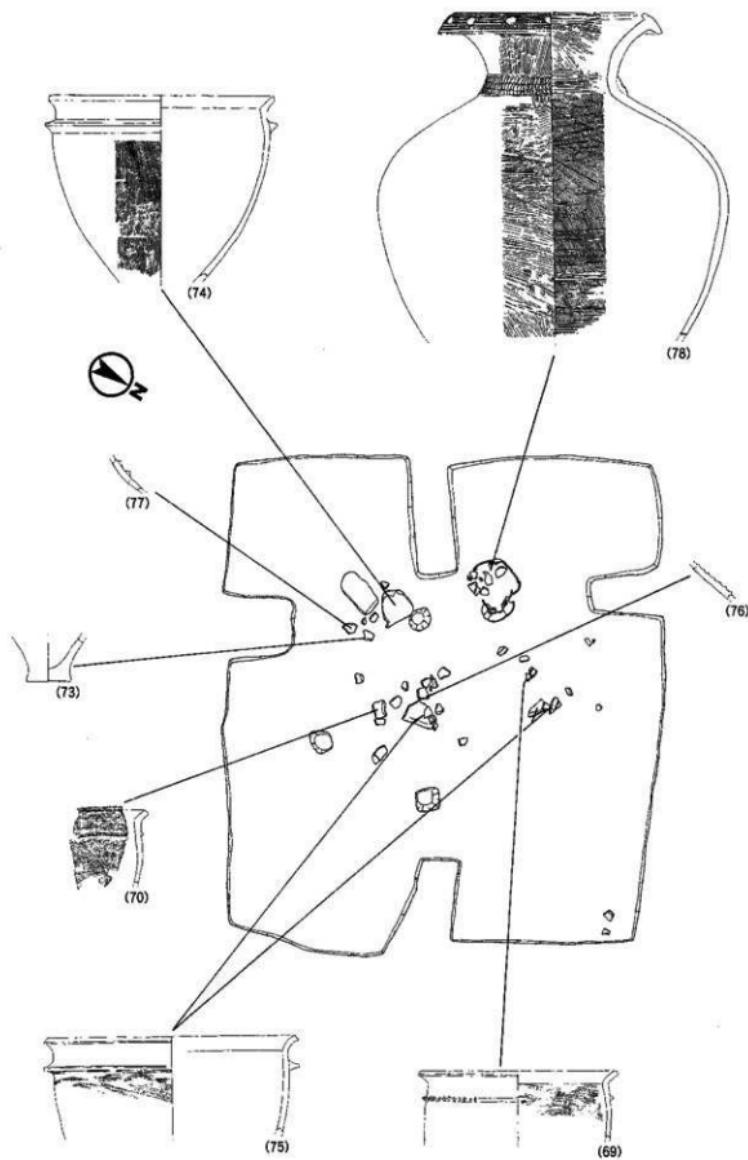
第9図 SA-33遺物出土状況図



第10図 SA-34遺物出土状況図



第11図 SA-35遺物出土状況図



第12図 SA-36遺物出土状況図

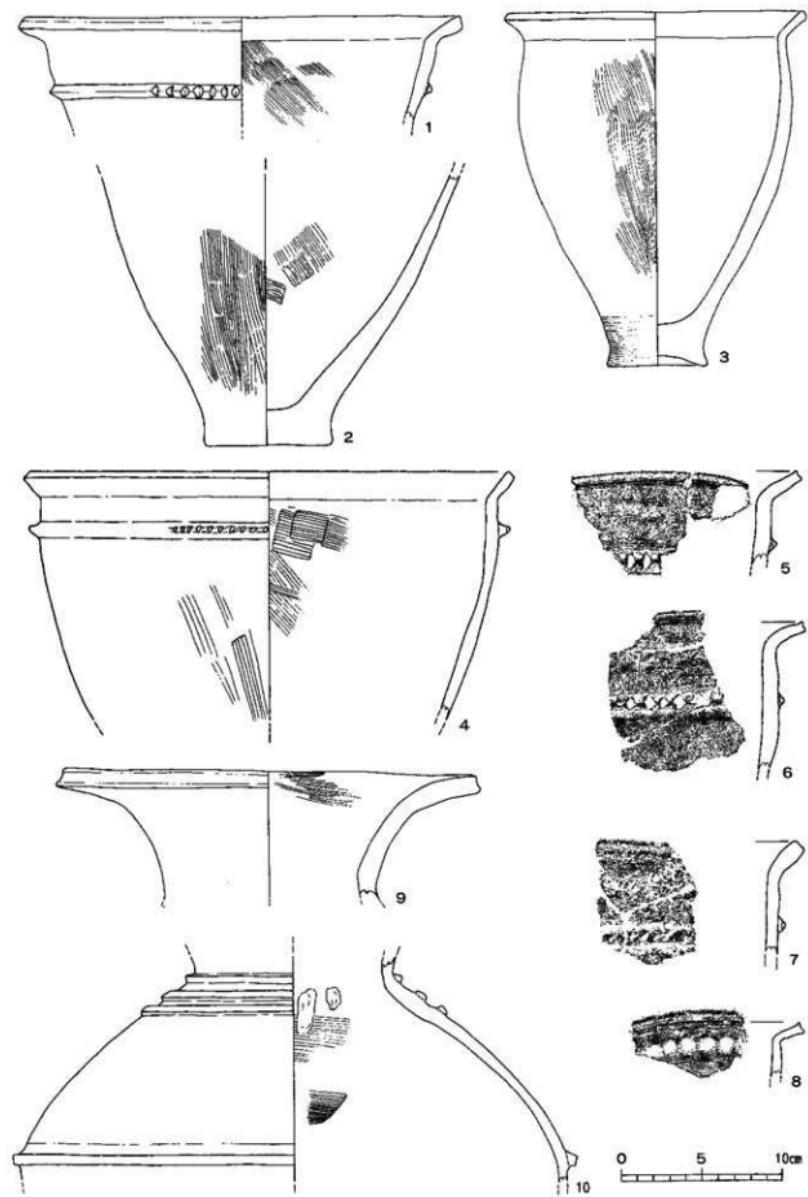
表1 遺構内出土土器観察表

遺物 番号	遺構名	器種	器形	文様および調査		焼成	色調	内面	上	備考
				外 面	内 面					
1	Sa24	甕	口縁部 「のちナデ」	ハゲ		良	に5~1mm黒褐色 (10YR7/4)	に5~1mm褐色 (10YR7/4)	やや粗(0.5~1mm褐色を多量に含む)	
2	Sa24	甕	裏方向のハゲ 裏面部付近ナデ	ハケのちナデ		良	に5~1mm褐色～黒褐色 (7.5YR7/6)	に5~1mm褐色～黒褐色 (10YR6-3-2/1)	良(微細～3mm褐色を多量に含む)	焼付岩
3	Sa24	甕	口縁部 底面部	ハケ 「のちナデ」	（壺底のため不明）	良	に5~1mm褐色 (7.5YR7/4)	に5~1mm褐色 (7.5YR7/4)	やや粗(0.5~1mm長石、7.英含む)	焼付岩
4	Sa24	甕	口縁部～ 口縁部付近ナデ	ハゲ		良	浅黃褐色～に5~1mm褐色 (10YR8/3-5/4)	浅黃褐色～に5~1mm褐色 (5YR7/4)	良(0.5mm砂粒を多量に含む)	焼付岩
5	Sa24	甕	口縁部 「のちナデ」	ハゲ		良	に5~1mm褐色～灰褐色 (10YR7/6-5/2)	に5~1mm褐色～灰褐色 (10YR7/6-5/2)	良(0.5~1mm砂粒を多量に含む)	焼付岩
6	Sa24	甕	口縁部 「のちナデ」	ハゲ		良	に5~1mm褐色 (10YR7/3)	に5~1mm褐色 (10YR7/3)	良(0.5~1mm砂粒を多量に含む)	焼付岩
7	Sa24	甕	口縁部	壺底のため不明	壺底のため不明	やや不良	浅黃褐色～褐色 (7.5YR6-6-7)	浅黃褐色～淺黃色 (7.5YR6-6-7/3)	粗(1mm以上の砂粒を多量に含む)	焼付岩
8	Sa24	甕	口縁部 「のちナデ」	ハケのちナデ		良	に5~1mm褐色～淡黃褐色 (10YR7/3-8/3)	灰褐色～灰褐色 (2.5YR6-2-5/1)	良(0.5~2mm長石、角閃石、褐色砂粒含む)	焼付岩
9	Sa24	甕	口縁部 底面部	ハケのちナデ		良	に5~1mm褐色 (10YR7/4)	に5~1mm褐色 (10YR7/4)	やや粗(0.5~1mm長石、角閃石、褐色砂粒含む)	焼付岩
10	Sa24	甕	底面部	ハケのちナデ		やや不良	褐色～灰褐色 (7.5YR6-6-2-5YR7/2)	浅黃褐色～灰色 (5YR7/3-4/1)	やや粗(1mm前後の砂粒を多量に含む)	焼付岩
11	Sa25	甕	11縫部～ 縫部	「のちナデ」		良	11縫部 (10YR8/4)	11縫部 (10YR8/4)	良(0.1~0.2mm黑色砂粒含む)	焼付岩
12	Sa25	甕	11縫部～ 縫部	壺底のため不明	壺底のため不明	良	やや不良	褐色 (7.5YR7/6)	良(0.5~1mm砂粒を多量に含む)	焼付岩
13	Sa25	甕	口縫部	壺底のため不明	「のちナデ」	良	に5~1mm褐色 (10YR7/4)	に5~1mm褐色 (10YR7/4)	やや粗(0.5~1mm長石、角閃石、雲母片含む)	焼付岩
14	Sa25	甕	口縫部～ 底面部	ハケのちナデ		不良	に5~1mm褐色 (10YR7/3)	に5~1mm褐色 (10YR7/3)	やや粗(0.5mm長石、白色砂粒含む)	焼付岩
15	Sa25	甕	口縫部～ 口縫部付近ナデ	ハゲ		やや不良	黄褐色 (10YR8/6)	浅黃褐色 (7.5YR8/4)	やや粗(1~1.5mm砂粒を多量に含む)	焼付岩
16	Sa25	甕	底面部	字跡の「か」が不明		良	淡黃褐色 (2.5Y8/4)	淡黃褐色 (2.5Y8/4)	良(0.5~1mm砂粒を多量に含む)	焼付岩
17	Sa25	甕	底面部	壺底のため不明	壺底のため不明	やや不良	に5~1mm褐色 (10YR7/3)	に5~1mm褐色 (10YR7/3)	やや粗(0.5mm長石、白色砂粒含む)	黒底
18	Sa25	甕	底部	「のちナデ」		不良	に5~1mm褐色 (5YR7/4)	に5~1mm褐色 (5YR7/4)	粗(1~1.5mm砂粒を多量に含む)	焼付岩
19	Sa26	甕	口縫部	「のちナデ」		やや不良	淡黃褐色 (10YR8/3)	淡黃褐色 (10YR8/3)	やや粗(2mm砂粒を少量含む)	焼付岩
20	Sa28	甕	山縫部	ハゲ		良	淡黃～黃褐色 (2.5Y8/4-4/1)	淡黃褐色 (2.5Y8/3)	良(0.5~2mm砂粒を少量含む)	焼付岩

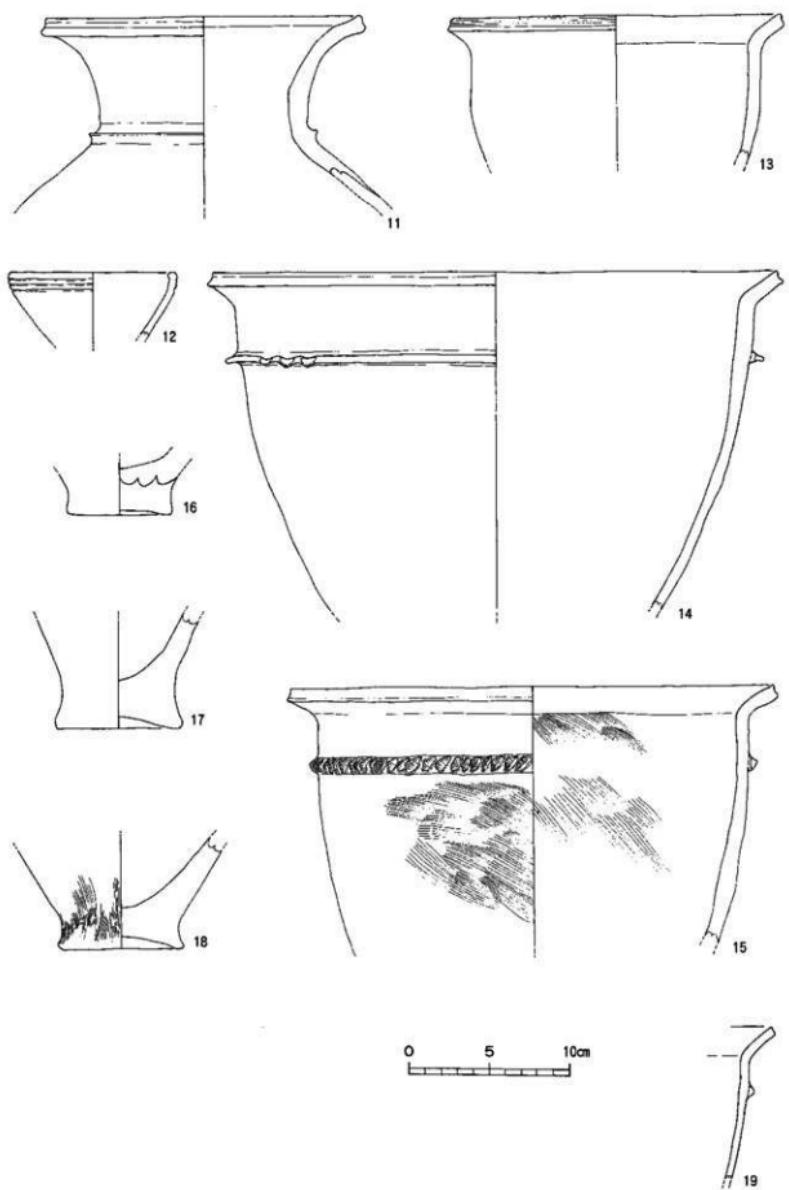
遺物番号	遺物種別名	器形	文様および調査			施成	外 面	内 面	調 色	土	備考
			外 面	内 面	單體のため不明						
21	Sa28	甌	口縁部～ ハサ'	ハサ'	单體のため不明	ややや不良	透赤鉄色 (7.5YR8/6)	にぶい・赤色～赤黄褐色 (7.5YR6.4-10YR5/2)	ややや青(0.5～1mm程度含む)		
22	Sa31	甌	口縁部～ ハサ'	ハサ'	单體のため不明	良	にぶい・黒紫色～灰黑色 (10YR7.4-4/2)	にぶい・黒色 (7.5YR7.6-5/3)	青(1mm人の頭髪多量に含む)	煤付着	
23	Sa31	甌	口縁部～ ハサ'	ハサ'	单體のため不明	良	にぶい・黒色 (7.5YR5/3)	にぶい・黒色 (5YR7/6)	良(0.5mm程度含む)	煤付着	
24	Sa31	甌	口縁部～ ハサ'・ハサ'	-	单體のため不明	ややや不良	墨色～淡黄色 (7.5YR7.6-2.5Y7/3)	墨色～浅黄色 (7.5YR7.6-10YR7/3)	青(1mm頭髪を多量に含む)	煤付着	
25	Sa31	甌	口縁部～ ハサ'・ハサ'	ハサ'・ハサ'	单體のため不明	ややや不良	透赤鉄色 (10YR3/1)	にぶい・黃褐色 (10YR7/4)	ややや青(0.5mm長石、角閃石、雲母片含む)	煤付着	
26	Sa31	甌	口縁～ 底部	ナデ'・カズリ	单體のため不明	良	透赤鉄色～にぶい・黒褐色 (2.5YR7.4-10YR7/4)	透赤鉄色～にぶい・黒褐色 (2.5YR7.4-10YR7/4)	良(0.5～1.5mmの砂粒含む)	煤付着	
27	Sa31	甌	底部	ナデ'	单體のため不明	不良	透赤鉄色～暗黒色 (2.5Y7.3-5/2)	透赤鉄色～暗黒色 (10YR3-4/1)	良(0.5～1.5mmの砂粒含む)	煤付着	
28	Sa31	甌	底部	ナデ'	单體のため不明	ややや不良	透赤鉄色～暗黒色 (10YR8/3-4/1)	透赤鉄色～暗黒色 (2.5Y3/1)	ややや青(1mm頭の砂粒含む)		
29	Sa31	甌	底部	ナデ'・ハサ'	单體のため不明	良	透赤鉄色～暗黒色 (2.5Y6.2-5/1)	透赤鉄色～暗黒色 (2.5Y3/1)	良(1mm人の頭髪を少量含む)		
30	Sa31	甌	底部	ナデ'	单體のため不明	良	にぶい・黒紫色～灰黑色 (10YR7.4-6/2)	—	良(1mm大の雲母含む)		
31	Sa31	甌	底部	ナデ'・ハサ'	单體のため不明	ややや不良	透赤鉄色 (10YR8/3)	透赤鉄色 (10YR8/3)	ややや青(0.1～0.5mm長石、角閃石含む)		
32	Sa31	甌	底部	-	单體のため不明	ややや不良	透赤鉄色 (5YR6.8-5.5Y5/2)	透赤鉄色 (5YR6/6)	ややや青(1mm大の砂粒多量、雲母片含む)		
33	Sa32	甌	底部	ナデ'・ハサ'	单體のため不明	不良	透赤鉄色 (10YR8/3)	透赤鉄色 (7.5YR8/3)	青(0.5～2mmの砂粒含む)	煤付着	
34	Sa32	甌	口縁部～ ハサ'・ハサ'	ハサ'	单體のため不明	ややや不良	透赤鉄色 (2.5Y8.2-3.5Y6/2)	透赤鉄色 (2.5Y8.3)	ややや青(0.5～2mm砂粒含む)	煤付着	
35	Sa32	甌	底部	ナデ'・ハサ'	单體のため不明	不良	透赤鉄色～淡褐色 (7.5YR8/4-5YR8/4)	透赤鉄色～淡褐色 (7.5YR8/4-5YR8/4)	ややや青(0.5～1mm長石、角閃石、白色砂粒含む)		
36	Sa32	甌	底部	ナデ'	单體のため不明	良	透赤鉄色 (7.5YR8/6)	透赤鉄色 (7.5YR7/6)	青(0.5～2mmの砂粒含む)	煤付着	
37	Sa32	甌	口縁部	ナデ'	单體のため不明	良	にぶい・黒色 (7.5YR5/4)	にぶい・黒色 (7.5YR5/4)	ややや青(1mmの雲母含む)		
38	Sa32	甌	底部	ナデ'	单體のため不明	不良	透赤鉄色 (10YR8/4)	透赤鉄色 (10YR5/1)	青(0.5mm砂粒含む)	黑斑	
39	Sa32	甌	底部	ナデ'	单體のため不明	良	にぶい・黒紫色 (10YR7/3)	にぶい・黒紫色 (10YR7/3)	やや青(2～2.5mm砂粒含む)		
40	Sa32	甌	底部	ナデ'	单體のため不明	良	にぶい・黒紫色 (10YR7/3)	透赤鉄色 (10YR7/3)	青(1～2mm白色砂粒、長石、角閃石含む)		

測定番号	記録名	器種	器部	文様および調査		地成	色調		胎十	備考
				外 面	内 面		外 面	内 面		
41	SA32	蓋	底部	ハゲ・ナデ	ハゲ・ナデ	良	(2.5Y8/3)	深黄色 (2.5Y8/3)	やや粗(1~2mm白色砂粒、0.5mmの角閃石含む)	
42	SA32	裏	底部	摩滅のため不明	摩滅のため不明	不良	(10)R7/4	にぶい黄緑色 (10)R7/1	粗(0.5~1mm白石、墨色、白色砂粒含む)	黒斑
43	SA32	裏	口縁部～ 摩滅のため不明	摩滅のため不明	摩滅のため不明	不良	(5)R6/4	にぶい褐色 (5)R6/4	粗(0.5mm白色砂粒含む)	
44	SA32	蓋	口縁部	ナデ	ナデ	良	(5)R6/6	褐色 (10)R8/4	粗(0.1~0.2mm角閃石、0.5~1mm長石含む)	
45	SA32	蓋	觸把	ハゲ・ナデ	ハゲ	良	(10)R8/3	透青碧色 (10)R8/3	粗(0.5~1mm白色砂粒含む)	
46	SA32	蓋	底部	ハゲ・ナデ	ハゲ	良	(10)R7/3	透青碧色 (10)R7/3	今や粗(0.1~1mm白色砂粒、長石、角閃石含む)	底部外面と 内面に黒斑
47	SA32	蓋	口縁部	摩滅のため不明	摩滅のため不明	やや不良	(7.5)R7/6	褐色 (7.5)R7/6	粗(1~1.5mm白色砂粒含む)	
48	SA32	蓋	觸把	摩滅のため不明	摩滅のため不明	不良	(7.5)R6/6	褐色 (7.5)R6/6	粗(0.5~1mm砂粒、紫母片含む)	
49	SA32	ミニチア	口縁部	ナデ	ナデ	良	(2.5)8/2~2/1	灰色 (2.5)8/2	良(1mm位の砂粒少數含む)	
50	SA32	蓋	口縁部～ 底部	ハゲ・ナデ	ハゲ	良	(7.5)R7/6	褐色 (7.5)R7/6	良(0.5~1mm長石、0.1~0.2mm角閃石含む)	
51	SA33	裏	口縁部～	ハゲ・ナデ	ハゲ	良	(10)R7/3	にぶい黄緑色 (10)R7/3	良(0.1~0.2mm砂粒含む)	煤付着
52	SA33	裏	口縁部	ハゲ・ナデ	ハゲ	良	(10)R7/3	にぶい黄緑色 (10)R7/3	良(0.1~0.2mm砂粒含む)	煤付着
53	SA33	裏	口縁部～	ハゲ・ナデ	ハゲ・ナデ	良	(10)R4/3	透青碧色 (10)R4/3	粗(0.5mm砂粒含む)	煤付着
54	SA33	裏	口縁部	ナデ	ナデ	良	(10)R5/1	透青色 (10)R5/1	良(0.5~1mm角閃石、長石含む)	煤付着
55	SA33	裏	底部	ナデ	ナデ	良	(2.5)8/3	透青色 (2.5)8/3	良(0.5mm白色砂粒含む)	
56	SB33	裏	底部	ナデ	ナデ	やや不良	(2.5)7/3	透青色 (2.5)7/3	良(1~2mm砂粒多量含む)	
57	SA33	裏	底部	ハゲ・ナデ	ハゲ・ナデ	良	(2.5)7/3	透青色 (2.5)7/3	良(0.1~0.2mm白色、黑色砂粒含む)	
58	SA33	裏	觸把	ナデ	ナデ	良	(7.5)R6/4	透青色 (7.5)R6/4	良(0.1~0.2mm砂粒含む)	
59	SA33	蓋	口縁部	ナデ	ナデ	良	(10)R8/3	透青色 (10)R8/3	良(0.5mm長石、角閃石、1~2mm褐色砂粒含む)	
60	SA34	裏	口縁部	ハゲ・ナデ	ハゲ・ナデ	良	(10)R7/4	にぶい黃褐色 (10)R7/4	良(0.5~1mm角閃石、長石含む)	煤付着

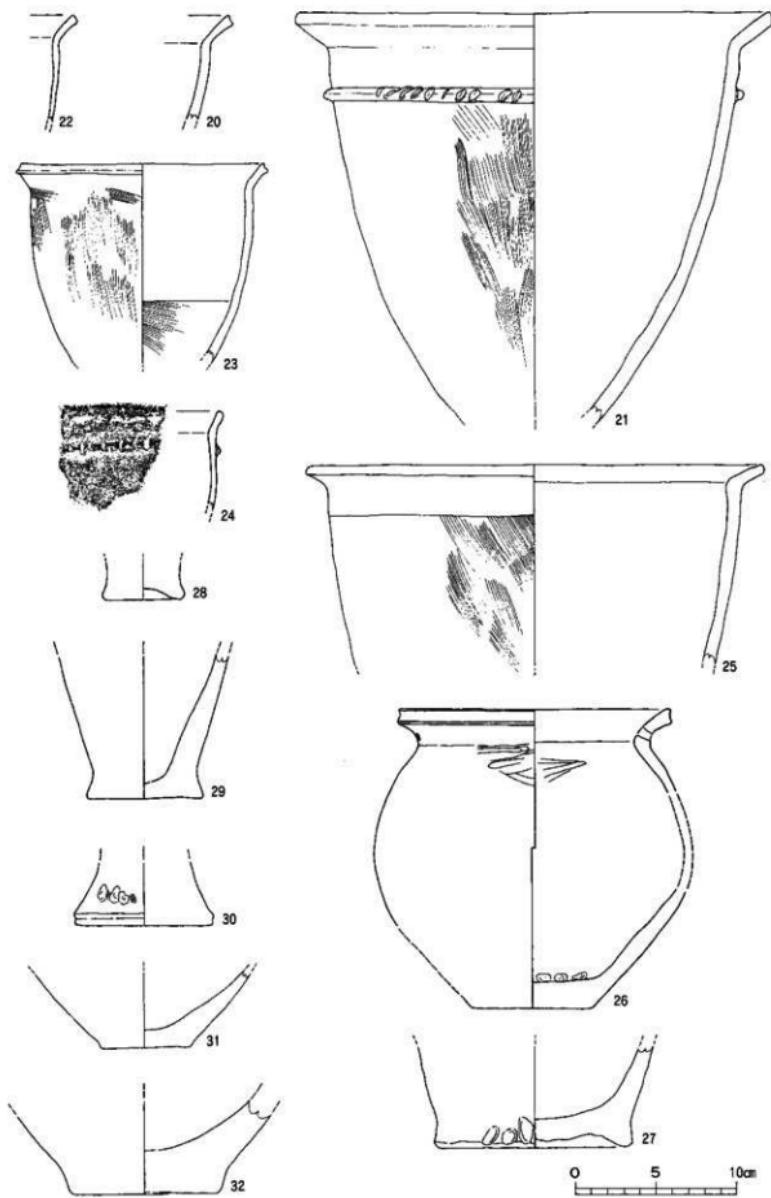
遺物番号	遺構名	器種	文様および調査		焼成	外面		内面		備考
			外面	内面		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	褐色 (10YR4/1)	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	褐色 (10YR7/6)	
61 SA33 麦 底部 ナゲ	口縁部	黒漆のため不明	漆職のため不明	良	やや不規	にぶい黄褐色 (10YR7/6)	褐色 (10YR7/6)	良(0.5mm石英、長石、白色砂粒含む)		
62 SA34 麦 底部 ハゲ	口縁部	黒漆のため不明	漆職のため不明	良	やや不規	にぶい黄褐色～褐灰色 (10YR7/6)	褐色 (5Y4/1)	粗(0.5～1mm長石、白色砂粒含む)		
63 SA34 麦 縱部～ ハゲ	縱部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	やや不規	にぶい黄褐色～褐灰色 (10YR7/6)	褐色 (5Y4/1)	粗(0.5～1mm長石、白色砂粒含む)	焼付着	
64 SA35 麦 口縁部 ハケ・ナゲ	口縁部	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	にぶい黄褐色～褐灰色 (10YR7/3～2.5Y4/1)	褐色 (10YR5/2)	良(微細な砂粒、雲母微かに含む)	焼付着	
65 SA35 麦 口縁部～ ハゲ・ナゲ	口縁部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	にぶい黄褐色～褐灰色 (10YR7/3～3.5Y4/1)	褐色 (10YR5/2)	良(0.5～1mm砂粒多量に含む)	焼付着	
66 SA35 麦 口縁部～ ハケ・ナゲ	口縁部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	浅黄褐色～黄灰色 (10YR8/3～2.5Y6/1)	黃褐色 (10Y6/6～4/1)	良(1mm前後の砂粒多量に含む)	焼付着	
67 SA35 麦 縱部～ ハケ・ミカキ	縱部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	褐色 (5YR7/6～6/6)	褐色 (10YR7/3～5/6)	良(0.5～1mm砂粒、長石、角閃石を多量に含む)		
68 SA35 麦 底部 ナゲ	口縁部	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	浅黄褐色～褐灰色 (10YR8/3～3/1)	褐色 (5Y4/1)	良(微細～2mm砂粒含む)		
69 SR36 麦 11縱部～ ハケ・ナゲ	11縱部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	浅黄褐色 (10YR8/4)	褐色 (10YR8/4)	良(0.5mm角閃石、長石含む)	焼付着	
70 SA36 麦 11縱部～ ハケ・ナゲ	11縱部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	にぶい黄褐色 (7.5YV6/0)	褐色 (7.5YR7/6)	良(0.5～1mm長石含む)	焼付着	
71 SA36 麦 11縱部 黒漆のため不明	11縱部	漆職のため不明	漆職のため不明	良	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	褐色 (10YR7/4)	やや粗(0.1～0.5mm長石、褐色砂粒含む)			
72 SA36 麦 11縱部 ハケ・ナゲ	11縱部	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	浅黄褐色 (10YR8/3)	褐色 (10YR8/3)	良(0.5mm前後の砂粒多量に含む)	焼付着	
73 SA36 麦 底部 黒漆のため不明 ナゲ	底部	漆職のため不明	漆職のため不明	不良	不規	褐色 (7.5YV7/6)	褐色 (10YR4/1)	粗(1～2mm白色、褐色砂粒含む)		
74 SA36 麦 口縁部～ ハゲ	口縁部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	やや不規	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	褐色 (10YR6/6)	やや粗(0.5～5mm砂粒～5mm大の砂粒含む)	焼付着	
75 SA36 麦 口縁部～ ハケ・ナゲ	口縁部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	にぶい黄褐色 (7.5YR7/6)	褐色 (7.5YR7/6)	やや粗(0.5mm砂石、輝石、白色砂粒含む)		
76 SA36 麦 局部 ナゲ	局部	漆職のため不明	漆職のため不明	不良	不規	にぶい黄褐色 (7.5YR6/4)	褐色 (7.5YR6/4)	良(0.5～1mm雲母片含む)		
77 SA36 麦 脊部 ナゲ・ミカキ	脊部	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	褐色 (10YR4/1)	良(0.5mm白色砂粒含む)		
78 SA36 麦 11縱部～ ハケ・ミカキ	11縱部～	漆職のため不明	漆職のため不明	良	良	淡黄色～黒色(5Y8/1～2/1) 一部、褐色(5Y10/5/6)	褐色 (2.5Y7/3)	良(0.1～0.2mm砂粒含む)		



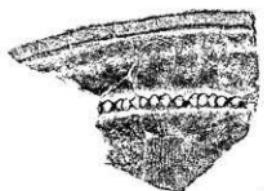
第13図 SA-24内出土土器実測図



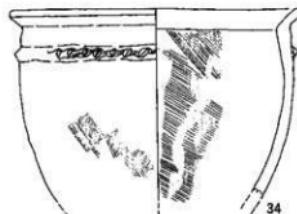
第14図 SA-25・26内出土土器実測図



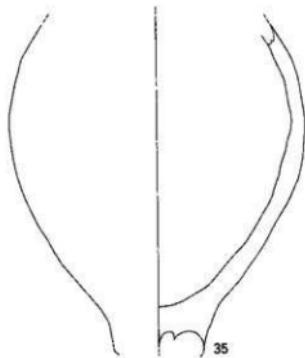
第15図 SA-28・31内出土土器実測図



33



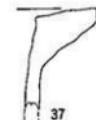
34



35



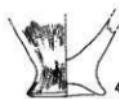
36



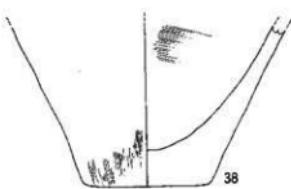
37



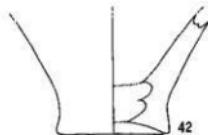
40



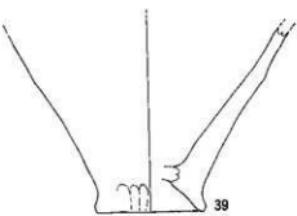
41



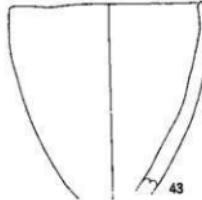
38



42



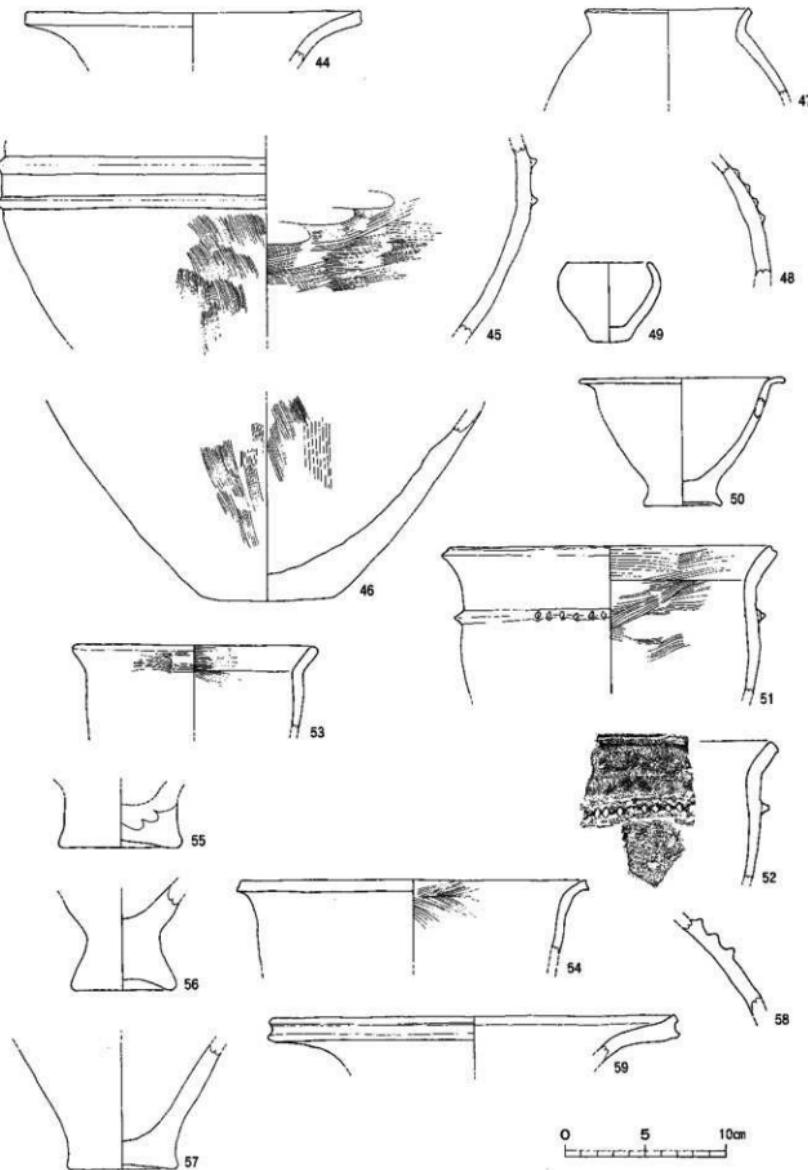
39



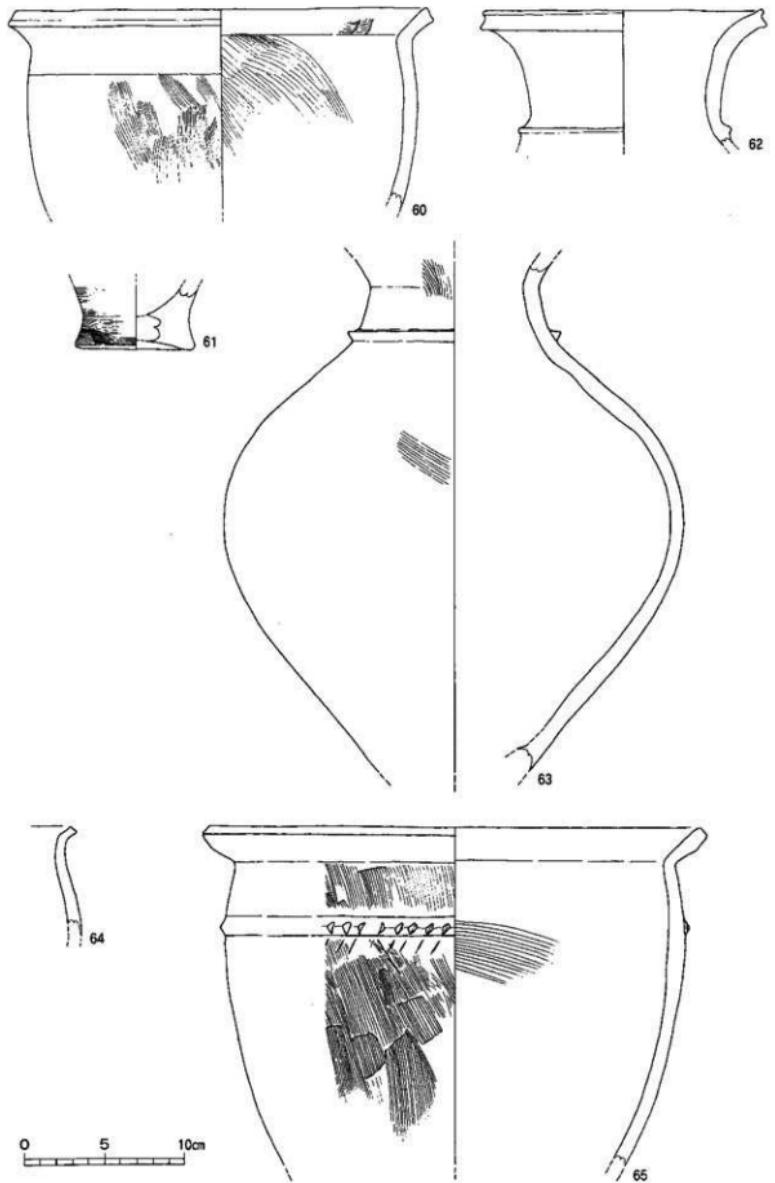
43

0 5 10cm

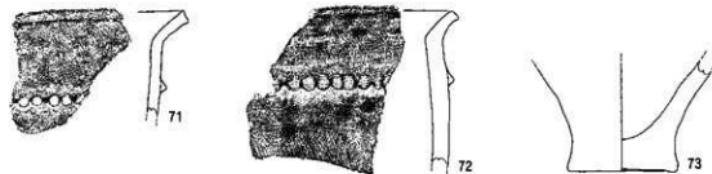
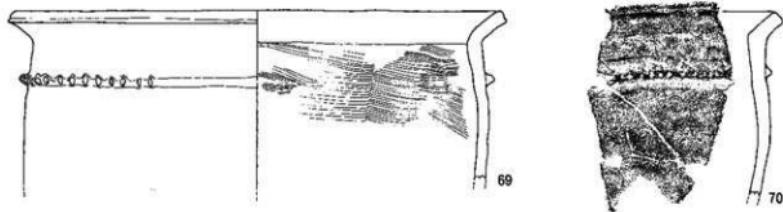
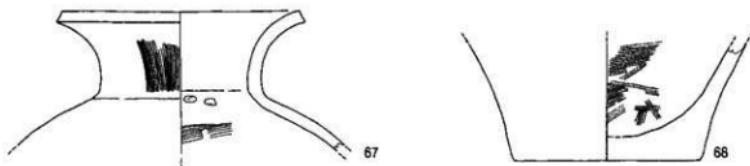
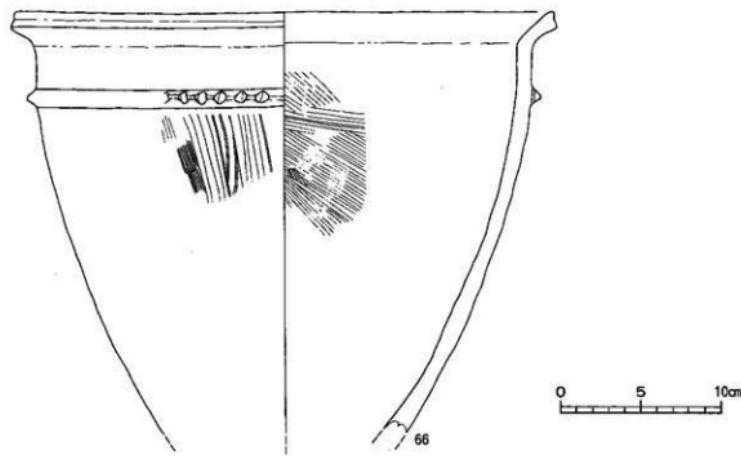
第16図 SA-32内出土土器実測図



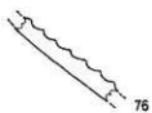
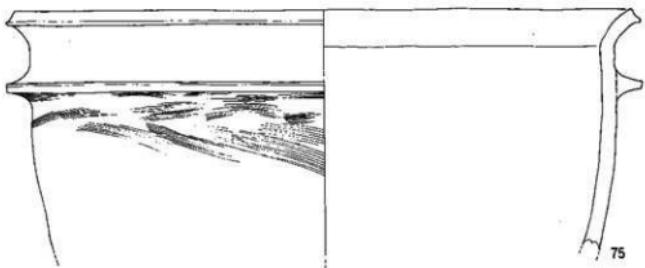
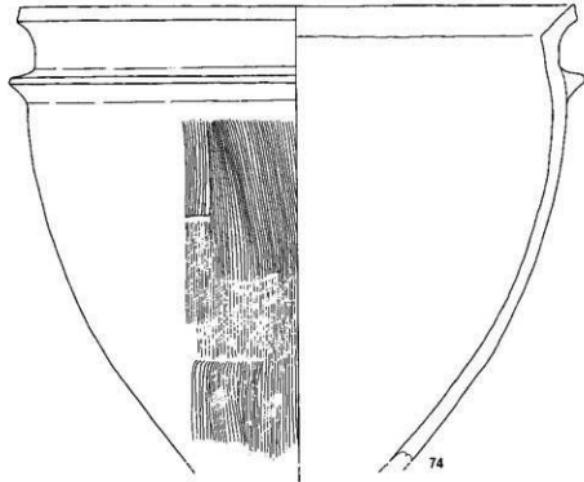
第17図 SA-32・33内出土土器実測図



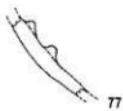
第18図 SA-34・35内出土土器実測図



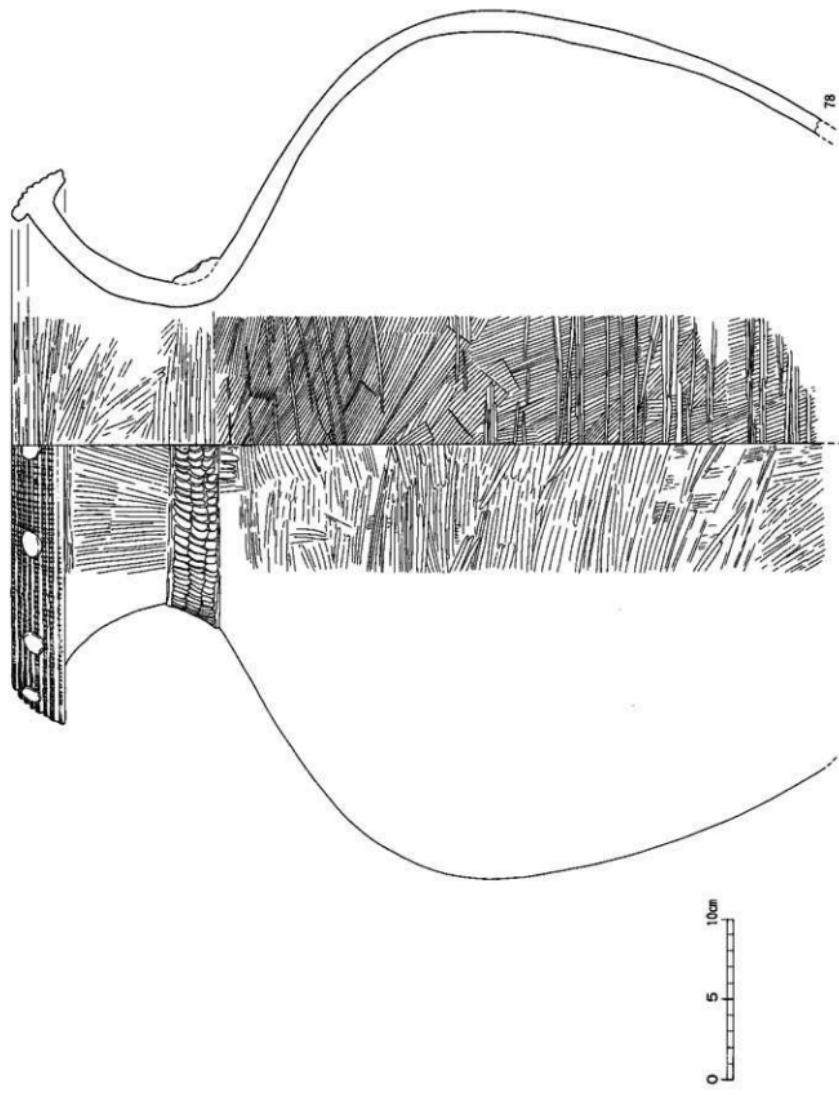
第19図 SA-35・36内出土土器実測図



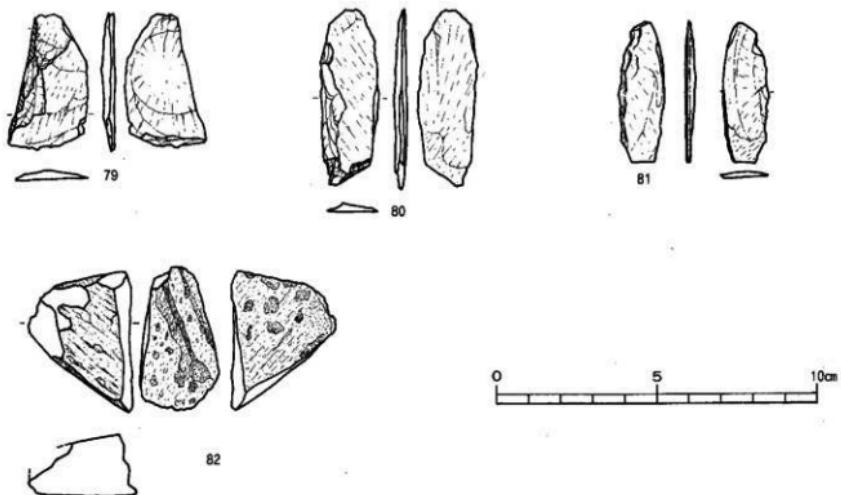
0 5 10cm



第20図 SA-36内出土土器実測図



第21図 SA-36内出土土器実測図



第22図 出土石器実測図

表2 出土石器観察表

No.	出土地点	器種	石材	大きさ (cm)			備 考
				最大長	最大幅	最大厚	
79	表面採集	石鐵の木製品	結晶片岩	4.2	2.5	0.5	片側縁から数回剥離が行われる
80	表面採集	石鐵の木製品	結晶片岩	5.5	1.85	0.45	端部から数回剥離が行われる
81	SA-23内	石鐵の木製品	結晶片岩	4.4	1.45	0.35	片側縁から数回剥離が行われる
82	表面採集	輕石加工品	輕石	4.5	2.55	3.25	一面に鋭利な溝が2本刻まれる

\*81の出土したSA-23は縄文時代の住居であるため、住居の覆土堆積中に流れ込んだと思われる。

## 第5節 まとめ

高野原遺跡の弥生時代遺構は、一般に縄文時代の集落が立地するような台地上にある。この傾向はズクノ山第1遺跡、権現谷第1遺跡のほか、近隣地域の椎屋形第1遺跡などと共通している。ただし、元木遺跡のみ河川との高低差がそれほど無い河岸段丘上であった。また、中期後半から後期の遺跡が大半を占めることも、田野盆地内のみならず宮崎県下における一つの傾向である。

本遺跡の検出資料は、耕作による削平の影響を少なからず受けているものの、一定量の遺物が出土した。まずは、これらについて概観を記しておく。尚、大まかな編年分類については、県下で汎用されている石川編年を可能な限り適用した。

甕はすべて口縁部が外反するもので、いわゆる中溝式とされている①口縁部直下に貼付の刻目突帯を有するもの（1・4～8・15・19・21・24・33・34・51・52・65・66・69～72）と、②刻目を施さない突帯を有するもの（37・74・75ほか）、③突帯を行さないもの（3・8・13・20・22・25・53・54・60・64）とに大別される。①③は、いずれも口縁部は比較的明瞭なくの字状に屈曲する。その胴部は底部にかけて直線的に窄むものと、やや膨らみを有するもの（34・65ほか）がある。底部については底面を上げ底状につくるものと平らにつくるものとに二分される。②は口縁部の屈曲が逆L字状に近いもの（37）と、くの字状に屈曲するタイプがある。①③が大半を占める中で、ごく少量の出土にとどまった。石川編年の図表と比較する限りにおいては、本遺跡資料はⅡb期からⅣ期の範疇におさまるものとみられる。尚、本遺跡では須久式及び直口する口縁部の下位に刻目突帯を有する下条式とされるタイプは出土していない。主に大阪半島から都城盆地にかけて分布すると言われている胎土に雲母を含有するもの（13・25・30・36・37・64）は②と③のタイプに限られた。（37）は山ノ口式の口縁部で、（30）は同底部である。総個体数の比率から、これらは移入された土器であると考えられよう。

甕は短頸甕（26・47）とその他（9～11・35・44～46・48・58・59・62・63・67・76・77・78ほか）に大別され、長頸甕は出土していない。短頸甕（26）は口縁部がそれほど強く屈曲しない堂地東遺跡SA-7出土資料とほぼ同類のものである。頸部直上に焼成前の削孔が二箇所二対みられる。（47）は口縁部が短く直立気味に屈曲するものである。これら以外について、（78）を除いては鋸先状や垂下がり状あるいは複合口縁のものは無い。①頸部および胴部に突帯を巡らすもの、②無文のものがある。破片残存状態の差異から即断はできないが、明確に②と判断できるのは（67）のみである。①は突帯が断面三角形のものと、方形に近いものとに細分できる。（35）は口縁部と底部を欠損するが、銀代ヶ迫遺跡SA-24のような長胴化したタイプと想定される。以上の出土資料は、石川編年の図表と比較する限りにおいては、Ⅲb期を主体としながらも一部でⅣ期にまで至る様相が窺われる。尚、SA-36出土の（78）は口唇部が肥厚し、口縁端部に廉状文を施し円形浮文を貼りつけ、頸部に押引き状の刻目突帯を貼付けるもので、その外観を含めた全てが愛媛県文教遺跡第10次調査におけるSX-1出土の一品と一致する。胎土や調整・施文など、他の出土

資料と比較してかなり緻密であることから、移入品と判断した。梅木謙一氏により、凹線文の盛行する松山平野中期後半にあたる、Ⅳ期のものとして位置づけられている。同遺構から出土した(69~77)は石川編年のⅢb期にほぼ納まるもので、やはり中期後半に位置づけられることから、矛盾の無い一括資料として評価できる。

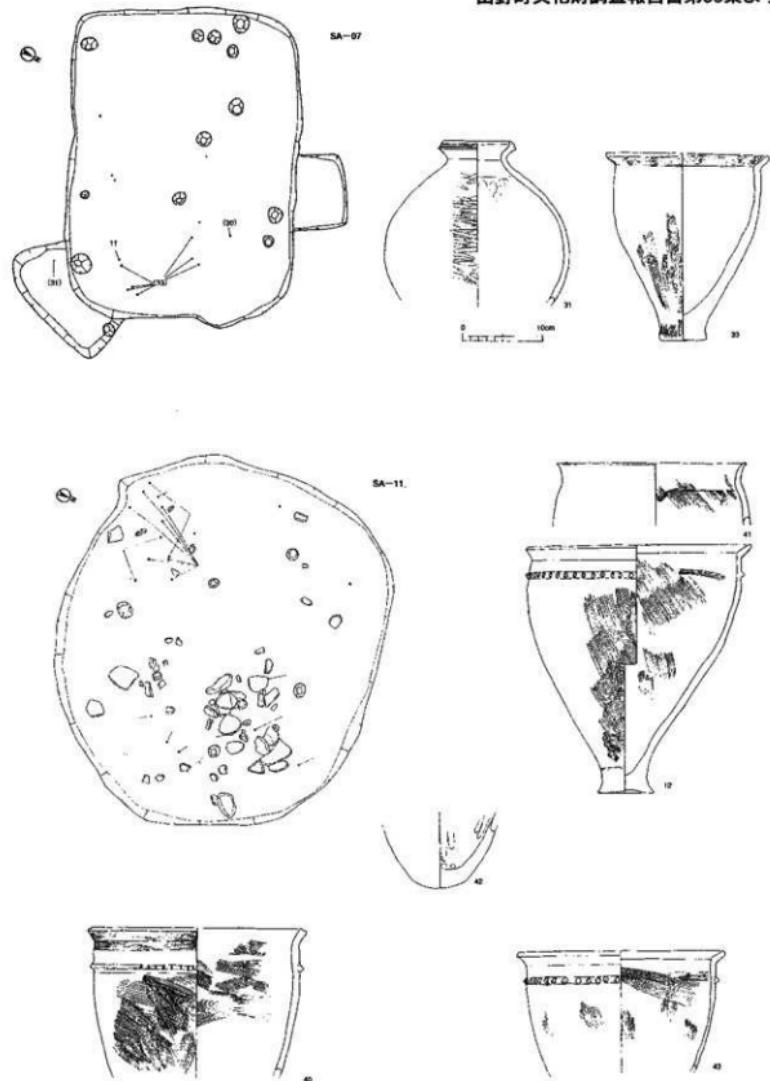
その他、高坏(12)、鉢(43・50)やミニチュア土器などがある。(12)は3条の凹線を施す高坏であるが、移入品とは断定しがたい。瀬戸内地域の影響を受けたものであろうか。県内では橈遺跡で脚部として報告されている資料と類似している。

以上のことから本遺跡の弥生時代集落は、壺のプロポーションにおいて石川編年との若干の矛盾がみられるものの、壺の編年を重視した場合ではSA-24(9・10) SA-25(11) SA-28(26) SA-32(44~48) SA-33(58~59) SA-34(62・63) SA-36(74~78)などにⅢb期の中期後半を主体とする様相が把握できよう。

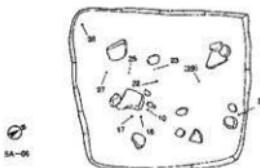
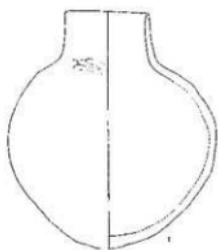
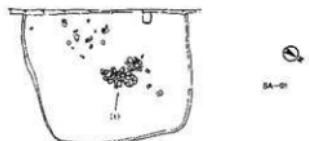
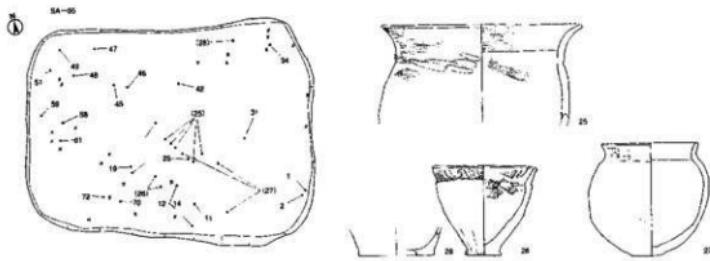
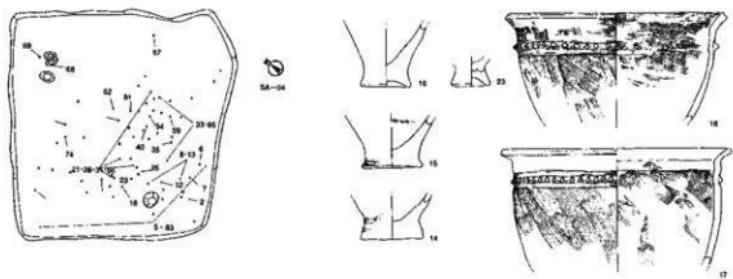
最後に隣接する本野遺跡との関連を概観しておきたい。高野原遺跡との位置関係については前述のとおりである。本野遺跡では13軒の竪穴住居跡が検出された。うち1軒(SA-11)が橈円形に近い不整形なプランを呈する他は、すべて方形プランを呈するものである。花弁状住居を含む間仕切り住居は無いが、(SA-07・09)のみ住居のコーナーに方形の張り出し部を有する。SA-05・06やSA-11出土資料(12・42)などにⅣ期・Ⅴ期の様相がみられるほか、SA-07の(31・32)など中期後半を主体とするものもある。(31)は口縁部のみ凹線文を施すものであるが、松山平野、Ⅳ期中に類似するものがあり、移入品の可能性もある。これらの様相から、本野遺跡と高野原遺跡の弥生時代集落は一連のものであり、高野原から本野へ移行する様相が想定される。しかし、高野原出土資料と同様、特に中溝式甕とその他の土器において、その序列に若干の矛盾がみられた。本調査の精度にも問題があるにせよ、今一度、移入品を含めた他地域との資料対比をさせたうえで、県下における弥生土器編年の再精査を行なう必要がある。

#### 参考文献及び関連文献

- ・ 梅木謙一「伊豆の弥生時代中期土器」「弥生時代中期の土器と集落」古代学協会四国支部第八回大会資料 1994
- ・ 梅木謙一「瀬戸内海を入る土器、出る土器」「瀬戸内・海の物流」古代学協会中国・四国支部合同大会資料 1993
- ・ 宮城光博「小溝式系上層の検討」古文化論叢45
- ・ 山中悦也「宮崎平野における弥生土器編年試案」宮崎県総合博物館研究紀要8 1982
- ・ 中岡 駿「象頭Ⅱ式期の九州・瀬戸内」「弥生時代中期土器甕式の併行関係」史探第133 1996
- ・ 石川悦雄「宮崎考古学会発表資料
- ・ 宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第4集 宮崎県教育委員会 1988
- ・ 下那村貝塚「那珂文化財調査研究報告Ⅱ」宮崎県総合博物館 1988
- ・ 八幡上遺跡・七又木地区遺跡「縄代ヶ辻遺跡」「七又木地区遺跡」新富町文化財調査報告書第13集 新富町教育委員会 1992
- ・ 植屋形第1号遺跡「県営農地保全整備事業時原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」宮崎市教育委員会 1996
- ・ 文教遺跡第10次調査「文教遺跡における弥生時代遺跡の調査」「愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ」愛媛大学埋蔵文化財調査室 1991
- ・ 土子遺跡「一般国道220号線施設バイパス建設に伴う発掘調査報告(2)」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(34) 鹿児島県教育委員会 1985
- ・ 田野町文化財調査報告書第33集 44集 45集 田野町教育委員会

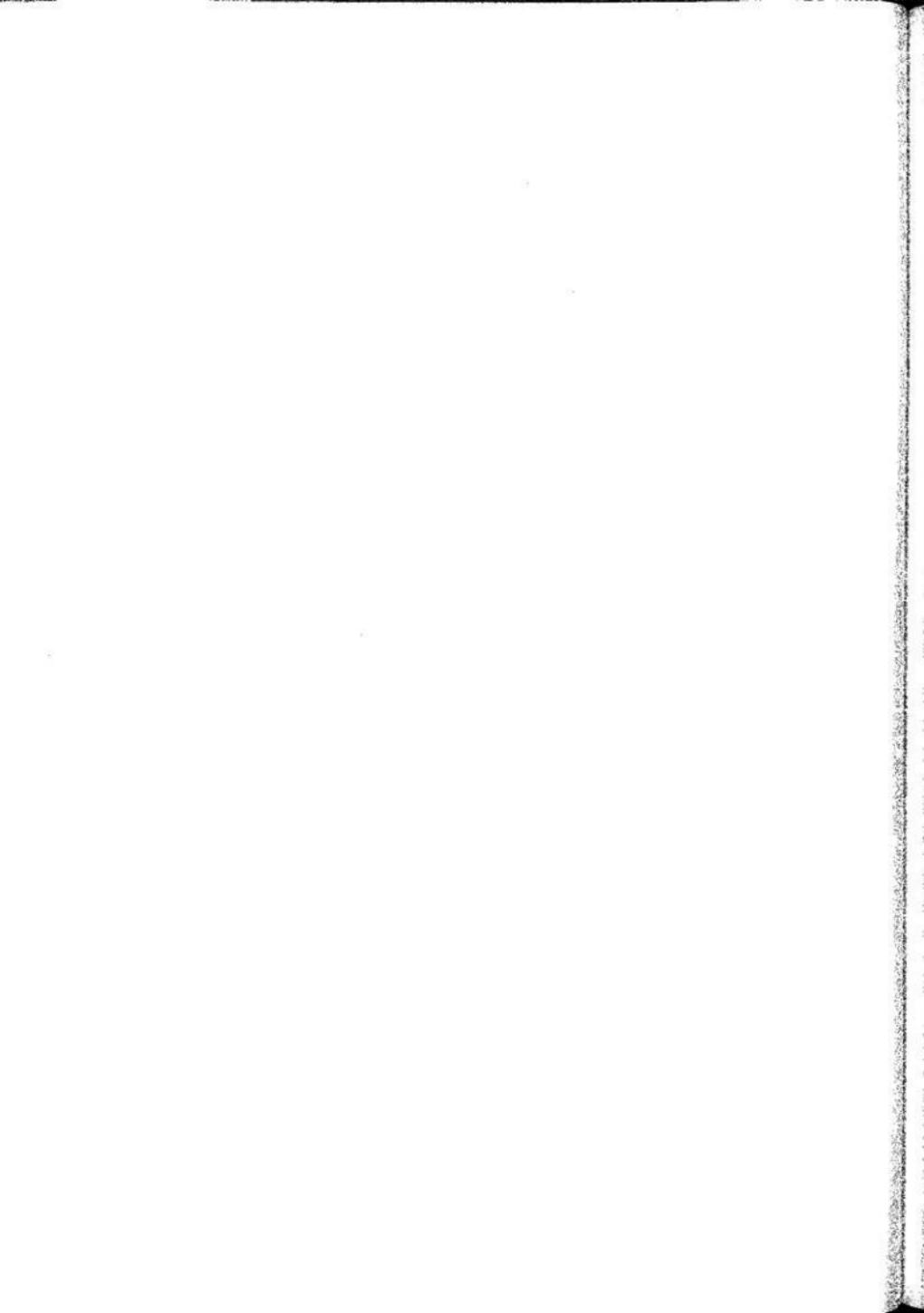


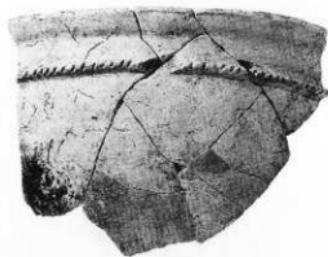
第23図 本野遺跡の主な遺構と遺物



第24図 本野遺跡の主な遺構と遺物

# 写 真 図 版





4



3



1



6



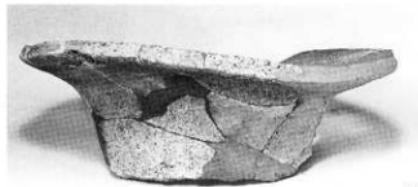
7



5



8



9



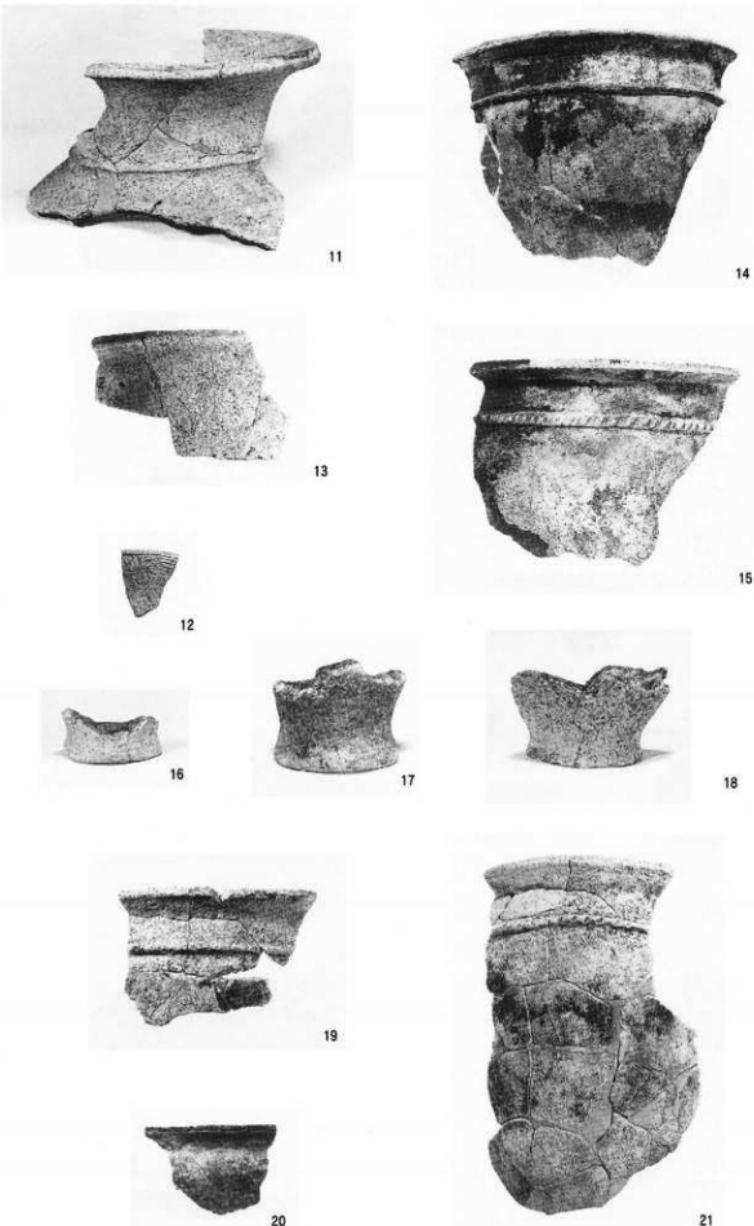
2



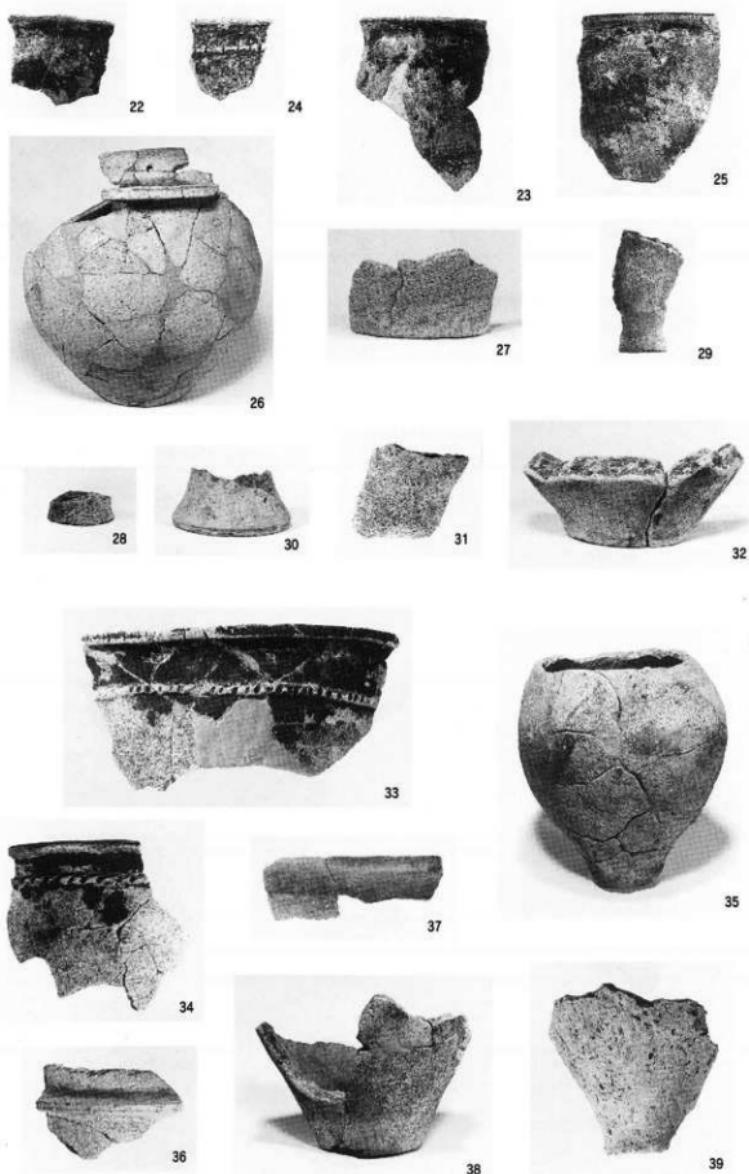
10

SA-24内出土土器

## 図版 2

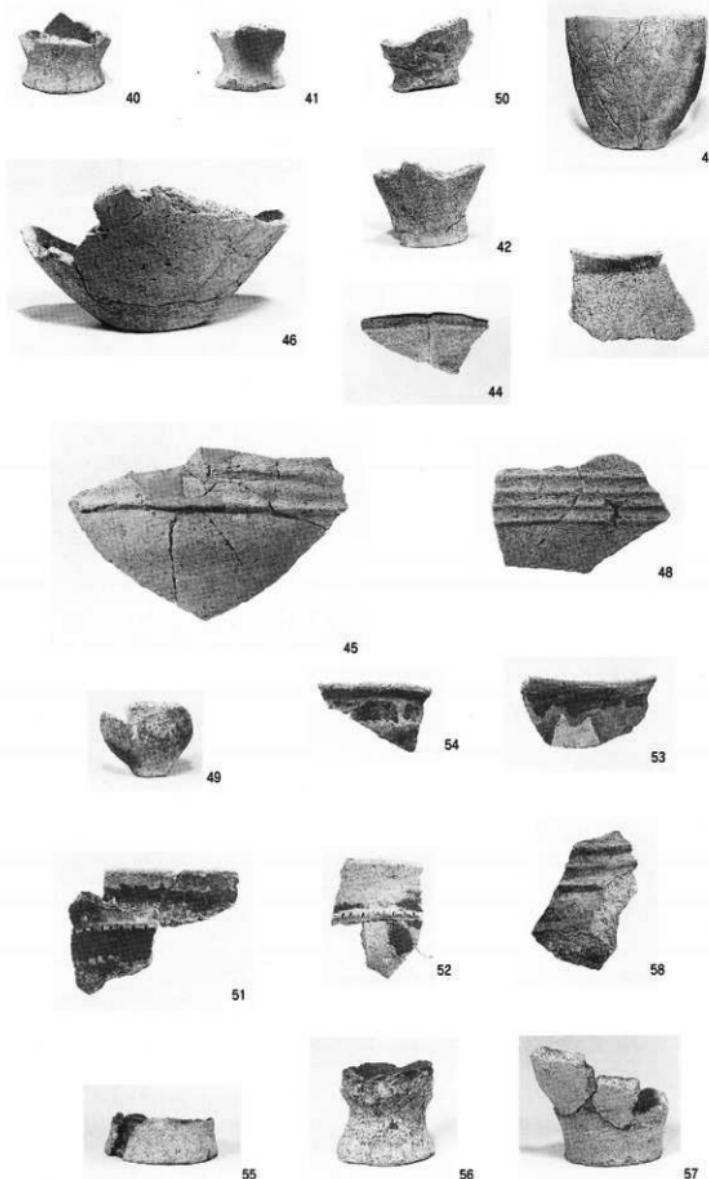


SA-25・26・28内出土土器

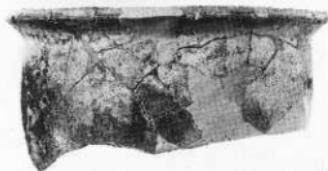


SA-31・32内出土土器

## 図版 4



SA-32・33内出土土器



60



62



64



61



59



63



65



66



67



68

SA-34・35内出土土器

## 図版 6



76



77



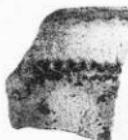
69



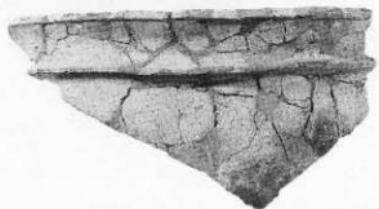
71



70



72



75

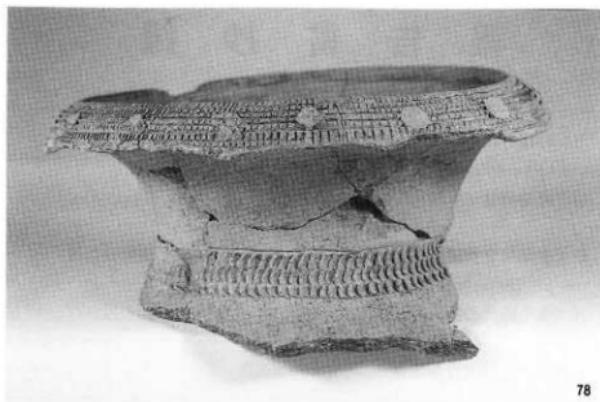


74

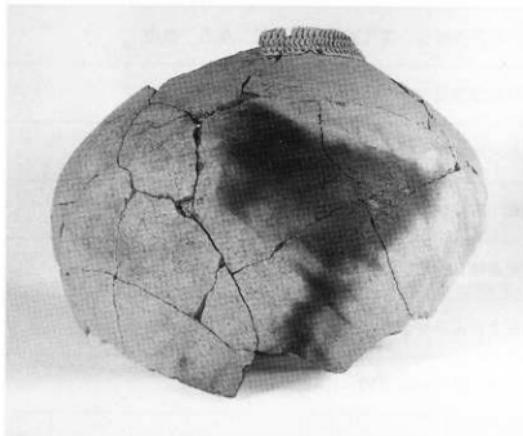


73

SA-36内出土土器



78



81



79



80



82

SA-36内出土土器・出土石器

# 報告書抄録

ふりがな	たかのばるいせき						
書名	高野原遺跡B・C区(3)						
副書名	県営農地保全整備事業元野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	3(弥生時代の調査)						
シリーズ名	田野町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第46集						
編者名	田野町教育委員会 文化財調査事務所 森山 浩史						
編集機関	田野町教育委員会						
所在地	宮崎県宮崎郡田野町甲2818番地						
発行年月日	2003年(平成15年)3月						
所収遺跡名	高野原遺跡B・C区						
ふりがな	みやざきけんみやざきぐんのちょうこう						
遺跡所在地	宮崎県宮崎郡田野町甲13、124番地ほか						
市町村コード		遺跡番号	2000	北緯		東経	
調査期間	平成6年9月8日～平成7年1月28日						
調査対象面積	約16,800m <sup>2</sup>						
調査原因	平成6年度県営農地保全整備事業元野地区						
主な時代	縄文時代早期～晚期・弥生時代・古墳時代ほか						
主な遺構	竪穴住居・掘立柱建物・地下式横穴墓・土坑ほか						
主な遺物	縄文時代早期～晚期の土器・石器・弥生土器ほか						

**田野町文化財調査報告書 第46集**  
**高野原遺跡B・C区**  
**(弥生時代の調査)**

発行年月 2003年3月  
編集・発行 田野町教育委員会  
印 刷 小柳印刷株式会社